

平成 29 年度
外国語教育強化地域拠点事業
(慶應義塾大学)
成果報告書

巻頭言	1
事業経過報告書	3
事業最終報告	10
韓国語	11
中国語	37
スペイン語	46
ドイツ語	52
フランス語	65

平成 30 年 3 月

巻頭言

山下 一夫

慶應義塾大学外国語教育研究センター

研究推進委員会担当副所長

本冊子は、文部科学省の委託事業として慶應義塾大学が実施した、平成 29 年度外国語教育強化地域拠点事業の研究成果を纏めたものです。

文部科学省の外国語教育強化地域拠点事業は、もともと平成 26 年度から「英語教育強化推進事業」として始まりました。これは、「小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校における英語教育に関する教育課程等の改善に資する実証的資料を得るため」、特定の小学校・中学校・高等学校などを「英語教育強化地域拠点」として指定し、都道府県の教育委員会などが管理機関となって進められました。これが、平成 29 年度からは「英語以外の外国語」も行うこととなり、名称も現在のものに変更されました。しかし「英語以外の外国語」については、条件的に教育委員会等が管理機関となるのは難しいということで、様々な外国語教員が所属している大学を中心に進めることになったものです。公募が行われたのは平成 29 年の 3 月で、慶應義塾大学・大阪大学・名古屋外国語大学の 3 つの大学が申請・認可されました。

慶應義塾大学で本事業の受け皿となったのは慶應義塾大学外国語教育研究センターで、さらに実質的にはその中の研究推進委員会が担当しました。慶應義塾大学外国語教育研究センターは、小学校から大学院まで、慶應義塾の中にある様々な学校の外国語教員によって構成される横断的な組織で、外国語教育と外国語教育に関する幅広い研究活動、およびその支援を行っています。日本の大学の中には、すべての外国語担当教員が所属し、各学部の外国語教育を一元的に管理する「語学センター」を設置しているところもあり、慶應義塾大学外国語教育研究センターもそうした組織かと思われるかも知れませんが、そうではありません。慶應義塾では、各学校・各学部できめの細かい対応ができるよう、外国語教育のカリキュラムや教員などはそれぞれ独立しています。しかし、例えば一般の方向けの外国語講座や、様々な制約のため学部単独では実施できない授業、各学校・各学部が横断的に行うイベントなど、単一の部署だけでは実施することが難しい事業もあります。また、普段いわばバラバラに活動している各学校の外国語教員が、集まって意見交換をする場があれば、外国語教育をより充実させていくこともできます。慶應義塾大学外国語教育研究センターは、そうした役割を担う組織です。

また、優れた教育を行うには、それを裏付ける研究が必要となりますが、慶應義塾大学外国語教育研究センター内でそうした研究活動を担うのが「研究推進委員会」です。この委員会では、センター前所長の境一三教授を研究代表者として、科学研究費補助金を平成 24 年から 2 期連続で取得し、外国語教育における高大接続や複言語教育といった問題に取り組んできました(平成 24 年度～平成 26 年度基盤研究(A)「外国語一貫教育における複言語・複文化能力育成に関する研究 [課題番号 24242018]」、平成 27 年度～平成 30 年度 [予定] 基盤研究(A)「一貫教育における複言語能力養成のための人材育成・教材開発の研究 [課題番号 15H01886]」)。公益財団法人国際文化フォーラムの水口景子さんから本事業の応募に関して懇意された際、研究推進委員会が担当することを決めたのも、上記の様なセンターの性質・環境に加えて、この科研費研究の基礎があったからです。

また研究推進委員会メンバーには、英語一辺倒を煽るかのような、現在の状況に対する危機感もありま

した。もちろん英語の学習・教育も大切でしょう。しかし、それによって他の外国語の学習が等閑視されるような事態になれば、日本の将来は極めて悲観的なものとなります。科研費研究と並行して進めなければならないため、書類作成などの点で負担となることは明らかでしたが、一方で「英語以外の外国語」の教員として、この事業を進めなければならないという使命感もありました。幸い、志を同じくする様々な学校・言語の先生方の賛同を得ることができ、本事業を進めることとなりました。そうした思いは、大阪大学・名古屋外国語大学の先生方もおそらく同じだったでしょう。

本事業については、大阪大学はロシア語、名古屋外国語大学はフランス語というように、慶應以外の事業はいずれも1つの言語について集中的に研究するという性質のもので、それによって大きな成果を挙げられました。一方、慶應の事業の特徴として挙げられるのは、韓国語・中国語・スペイン語・ドイツ語・フランス語と、6つの言語を扱ったことです。「英語以外の外国語」は、高等学校では一般に教員が少なく、場合によっては学内に1名しかいないこともあり、また他の言語の教育状況もあまり具体的なことが解らず、様々な点でいわば「孤立」していることが少なくありません。本事業ではそうした状況も踏まえ、神奈川県で様々な言語を担当する中学・高校・大学の教員が、慶應義塾日吉キャンパスで定期的に集まり、各言語特有の事情などはひとまず棚上げした上で、言語の枠を超えたグループ活動を進めることを重視しました。私は平成25年から研究推進委員会担当副所長を担当している関係で、本事業の申請に関わり、また研究主任を務めることとなりましたが、先生方の議論からは勉強させられることばかりでした。

本事業で取り組んだ中心的な課題は、単元指導案の作成です。その際に重視したことが4つあります。1つ目は「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう態度」の「学力の3観点」です。2つ目は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の「指導目標の5領域」です。また3つ目が、「CanDoリストによる目標設定」です。さらに4つ目が、「逆向き設計による授業デザイン」です。

本事業は、1年という短期間であることも考えて、当初は単元指導案作成までとし、それに基づく実際の授業までは行わない予定でしたが、結局、各拠点校では授業の実施まで進めることができました。もちろん、今回の単元指導案もまだまだ改善の余地はありますし、これを年間計画にどう繋げていくかも大きな課題です。こうした点については、今後も議論を進め、検討して行きたいと考えています。

【メンバー】

研究担当者：山下一夫 慶應義塾大学理工学部准教授（中国語・研究主任）／境一三 慶應義塾大学経済学部教授（ドイツ語）／吉村創 慶應義塾高等学校教諭（ドイツ語）／櫻木千尋 カリタス女子中学高等学校教諭（フランス語）／遠藤正承 神奈川県立横浜翠嵐高等学校（定時制の課程）教諭（韓国語）／潮田央 神奈川県立藤沢総合高等学校教諭（中国語）／日比野規生 神奈川県立藤沢総合高等学校教諭（スペイン語）

運営指導委員：國枝孝弘 慶應義塾大学総合政策学部教授（フランス語）／中島ベルナルド 神奈川県立国際言語文化アカデミア教授（スペイン語）／山下誠 神奈川県立大師高等学校教諭（韓国語）／水口景子（公財）国際文化フォーラム事務局長（外国語教育、国際交流）

慶應外国語教育研究センター：矢田部清美 慶應義塾大学外国語教育研究センター助教／齋藤綾子（事務担当）

平成30年1月31日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 慶應義塾大学
所 在 地 東京都港区三田2丁目15-45
代 表 者 職 氏 名 塾長・長谷山彰

平成29年度外国語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成30年3月30日

2. 強化地域拠点の研究校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	けいおうぎじゅくこうとうがっこう	ふりがな	ふるた みきお
学校名	慶應義塾高等学校	校長名	羽田 功 古田 幹
ふりがな	かりたすじょしちゅうがくこうとうがっこう	ふりがな	さいとう てつろう
学校名	カリタス女子中学高等学校	校長名	齋藤 哲郎
ふりがな	かながわけんりつふじさわそうごうこうとうがっこう	ふりがな	さの あきこ
学校名	神奈川県立藤沢総合高等学校	校長名	佐野 朗子
ふりがな	かながわけんりつよこはますいらんこうとうがっこう (ていじせいのかてい)	ふりがな	さとう いたる
学校名	神奈川県立横浜翠嵐高等学校 (定時制の課程)	校長名	佐藤 到

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

さまざまな言語教育の現場 (多言語、多様な履修形態) に携わる教員が協働で以下に取り組む。

- ① 学習指導要領が掲げる、資質・能力を育てる多様な外国語の授業づくり
- ② 5つの領域 (「聞くこと」「読むこと」「話すこと (やり取り)」「話すこと (発表)」「書くこと」) を目標にすえた多様な外国語の授業づくり

(2) 研究の概要

これからの教育、なかでも外国語教育の方向性を研究担当者間で共有したうえで、研究校がそれぞれの現場に合った授業案を研究・開発する。英語以外の外国語は、学校には担当者が1人で

ある場合が多い、また同じ言語を開設していても各学校によって履修時間数が異なる。こうした現状を踏まえ、今回の研究では多様な外国語の担当者が協働し研究に取り組む。

これまでの経験から、多言語チームでの協働作業は、外国語教育そのものを研究するうえでは、大変有用であると考えます。また、今後の高大連携も踏まえ、運営指導委員には大学の専門家を迎えるとともに、研究担当者は、それぞれの言語教育の学会や研究会に参加し、研究開発の進捗状況を報告する。また、適宜メールや Wiki システムで研究担当者と運営指導委員が情報共有しながら研究を進める。

最終的な研究成果は、地域内で各言語を担当する研究担当者以外の教員間で広く共有する場を設け、今後の神奈川県内多言語教育関係者ネットワークの構築を図る。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

現在、英語以外の外国語を担当している教諭は、その科目の専任ではなく、他教科との兼任がほとんどである。また兼任する科目は必ずしも英語ではなく、外国語教育の方向性について学ぶ機会がほとんど提供されていない。また、学校内に当該外国語を担当している教員が1人しかない場合が多く、授業研究の体制が必ずしも整っているとはいえない。今回の研究は、まず、神奈川県内で多言語教育に携わり、かつ、授業研究に取り組む意識の高い教員が、これから日本の高等学校における外国語教育がめざす方向性について共有し、それに基づいて自身のこれまでの授業を振り返ることで、授業改善が行われることをめざす。

②研究仮説

これまでの授業研究や情報交換は、同じ言語を担当する教員間で行われることが多かったが、今回の研究では、言語の枠を超えてグループ活動を行うことが一つの特徴である。それぞれの言語教育あるいはクラスの状況など個別の事情をとりあえず脇に置いた上で、共有した外国語教育の方向性の本質を理解し、それに向かって授業研究・改善を行うことで、互いによい刺激を受け研究が進められるとともに、神奈川県内で英語以外の外国語教員のコアメンバー間の連携が深まる。

③研究成果の評価方法

研究に取り組む際に、全員共通の評価ポイントを作成・確認する。研究終了時に、それぞれがこの評価ポイントごとに成果を振り返るとともに、研究担当に運営指導員も加わり、同じポイントで評価する。さらに、成果を神奈川県内で多様な言語教育に取り組む教員に提供する際にも、同じポイントでフィードバックを依頼する。

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第 学年 コマ	第 学年 コマ	第 学年 コマ	第 学年 コマ
②小学校 教科型	第 学年 コマ	第 学年 コマ	第 学年 コマ	第 学年 コマ

(5) 研究計画

○平成29年度の進捗状況・課題

1 新学習指導要領に関する資料や「外国語学習のめやす」を読み込み、①新しい時代に必要となる資質・能力の育成のための3つの柱（知識や技能／思考力、判断力、表現力／学びに向かう力、人間性等の涵養）②外国語学習の目標としての5つの領域、③Can-Do リストを活用した学習到達目標の設定と評価、④バックワードデザイン（逆向き設計）について理解した上で、単元指導案の項目をメンバー間で共有した。

2 既存の単元指導案の分析と再構築

言語ごとに、今回の研究の対象とする単元指導案（すでに実施済みのものを想定していたが、新たに実施するものも対象とした）を決定し、対象とする単元指導案を、学習指導要領および「外国語学習のめやす」をベースにしたフレームワークにあてはめて分析を試み、それぞれの拠点校の教員が研究主任および運営指導委員のサポートを得て再構築した。中間時点で報告を行い、拠点校教員間の相互コメントを経てさらに改善をめざしているが、検討にかかる時間が必ずしも十分ではない。今後は Wiki や SNS を今まで以上に活用体制を整える必要がある。

3. 各言語の先進校の見学

岩手県の外国語学系、秋田県の国際コミュニケーション科設置校の見学を実施。両校は全国的にみても多言語教育先進校と位置づけられるが、新学習指導要領への対応は、現段階では十分とはいえないことが課題として浮かび上がった。

4. 各言語の高大の教育関係者とのネットワークづくり

中国語、ドイツ語、韓国語については、各言語の教育学会や教育研究会が開催するセミナーへの参加。スペイン語とフランス語は3月までにその機会を計画中。

5. 研究成果の共有

2018年1月に神奈川県内を中心とする多言語を担当する教員を対象とした報告会を実施。その場で成果を発表し、フィードバックを得る予定。

6. 次年度に向けての準備

今回再構築を試みた単元指導案をベースに、複数の単元指導案の作成、それらを年間指導計画の中に位置づけることにチャレンジする。

(6) 評価計画

○平成29年度の進捗状況・課題

研究開始時に、今回の成果物となる授業案・単元案の項目を決めるとともに、評価のためのルーブリックを作成することとした。研究終了時には、成果物を最初に決めた項目のポイントごとにて自己評価、研究担当・運営指導委員間で評価するとともに、1月21日に予定されている、神奈川県内で多言語を教えている教員向けの報告会でフィードバックを得て、次なる研究の課題を明確化する。

4.実施体制

(1) 実施体制の概要 ※別紙参照

慶應義塾大学外国教育センター内に、当該研究のプロジェクトチームを立ち上げ、研究担当者（プロジェクトチームの大学担当者および拠点校の英語以外の外国語教育担当者）が主に研究を進める。なお、公立の研究校指定については、神奈川県教育委員会の協力を得る、また研究全体に関しては、高等学校の外国語教育関連事業を進めている、公益財団法人国際文化フォーラムの全面的協力を得て進める。

(2) 研究担当者（研究主任は氏名に○印を付すこと）

職 名	氏 名	担当学年及び教科
慶應義塾大学／准教授	○山下一夫	中国語
慶應義塾大学／教授	境一三	ドイツ語
慶應義塾高等学校／教諭	吉村創	2,3 学年／ドイツ語
カリタス女子中学高等学校／教諭	櫻木千尋	中学 1,2 学年／フランス語
神奈川県立横浜翠嵐高等学校 (定時制の課程)／教諭	遠藤正承	2-4 学年／韓国語
神奈川県立藤沢総合高等学校／ 教諭	潮田央	2,3 学年／中国語
神奈川県立藤沢総合高等学校／ 教諭	日比野規生	2,3 学年／スペイン語

(3) 運営指導委員会

①組 織

氏 名	所 属	職 名	備考（専門分野等）
國枝孝弘	慶應義塾大学総合政策学部	教授	フランス語教育、フランス文学
中島ベルナルド	神奈川県立国際言語文化アカデミア	教授	スペイン語教育、スペイン語文化圏の思想史
山下誠	高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク 神奈川県立鶴見総合高等学校 神奈川県立大師高等学校	元代表 教諭	韓国語教育
水口景子	(公財)国際文化フォーラム	事務局長	外国語教育、国際交流

②活動計画

○活動計画

- 1.研究担当者は、会合への参加や適宜メールや Wiki システムで運営指導委員から助言を受けたり情報を共有しながら、課題を明確にし研究に取り組む。
- 2.運営指導委員は、研究担当者に寄り添い、専門家の立場や広く外国語教育の立場から適宜アドバイスを行う。
- 3.研究担当者は、日ごろなかなか見ることができない他校（なかでも先進的な取り組みを行っている学校）の授業を見学し、自らの授業改善の参考にする。
- 4.研究担当者および運営指導委員は、広く外国語関係者が参加する、または、研究者が担当する言語の教員が参加する研究会や学会等に参加し、研究の中間報告を行い、情報を収集するとともに、本研究で得た情報を提供する
- 5.研究成果は、地域（神奈川県）内で英語以外の外国語教育に携わる教員間で広く共有するとともにフィードバックを得る。
- 6.5で得られたフィードバックをもとに本研究の総括的評価を行い、次の研究課題を明確にする。

○平成29年度の進捗状況・課題

上記1では、Wiki システムで運営指導委員の助言を受けることを想定していたが、会合の回数を増やし、直接助言をうけるかたちで研究を進めた。

上記3で先進的な取り組みを行っている学校の授業見学を予定していたが、本研究課題（新学習指導要領の方向性を取り入れた授業づくり）を視野に入れ先進的な取り組みを行っている学校は日本国内にはほとんどないことを踏まえ、研究に参加している担当者間での相互フィードバックをもってそれぞれの授業改善をめざした。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	契約書締結	
5月	研究準備	
6月	会合1 （於慶應義塾大学日吉キャンパス） ・外国語教育の方向性の共有 ・上記を踏まえた各研究校の課題の設定 ・研究担当者（中国語）の高等学校中国語教育全国大会（於福井）への参加・研究計画の発表	会合への参加 各言語の専門家の立場から課題に対する助言 運営指導委員（中国語）の高等学校中国語教育全国大会への参加
7月	・課題に基づいた授業案の目標と評価の作成	適宜メールや Wiki システムで助言・情報共有
8月	会合2 （於慶應義塾大学日吉キャンパス） ・研究の途中経過を発表 ・研究者間の相互コメント、研究者と運営指導員の相互コメ	会合への参加 適宜メールや Wiki システムで助言・情報共有

	ント	
9月	<p>会合2（於慶應義塾大学日吉キャンパス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の途中経過を発表 ・研究者間の相互コメント、研究者と運営指導員の相互コメント 	適宜メールや Wiki システムで助言・情報共有
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した目標と評価、目標達成のための活動案の作成 ・<u>研究担当者および運営指導員コアメンバーの会合</u> ・研究担当者（ドイツ語）の独文学会（於広島）への参加・発表 ・<u>先進校の授業見学（～11月）</u> ・<u>参考図書の内容を研究に反映させる。</u> 	<p>適宜メールや Wiki システムで助言・情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>参考図書を読み研究担当者に助言</u>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した目標と評価、目標達成のための活動案の作成 ・研究担当者（韓国語）の高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク（JAKEHS）全国研修（於長野東京）への参加・発表 ・<u>研究担当者（スペイン語）の HIDE（スペイン語教育研究会）の勉強会に参加・発表</u> ・<u>研究担当者（ドイツ語）の日本独文学会関東支部研究発表会への参加・発表（於神奈川）</u> 	<p>適宜メールや Wiki システムで助言・情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員（韓国語）が JAKEHS 全国研修への参加、<u>多言語語教育の先進校である不来方高等学校と能代松陽高等学校を訪問し、授業内容やカリキュラムなどについて視察・参観</u> ・<u>運営指導委員（スペイン語）の HIDE 研究会への参加</u>
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した目標と評価、目標達成のための活動案の改善 ・<u>研究担当者（フランス語）の獨協大学フランス語教授法研究会への参加・発表</u> ・<u>研究担当者（韓国語）の朝鮮語教育学会への参加・発表</u> ・<u>会合3+勉強会</u> ・<u>1月の発表会に向けての準備と講師（多言語落語の三遊亭竜楽師匠）を招いた、多言語の学び方に関する勉強会</u> 	<p>適宜メールや Wiki システムで助言・情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>運営指導委員（フランス語）のフランス語教授法研究会への参加</u> ・<u>運営指導委員（韓国語）の朝鮮語教育学会への参加・発表</u>
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>会合34+研究成果発表会（於慶應義塾大学日吉キャンパス）</u> ・<u>研究成果（各言語の授業案）の発表と講師（上智大学の講演会「今なぜ多言語か」</u> 発表の場には、神奈川県内の高校で研究対象言語の教育に携わる教員（常勤、非常勤問わず）が参加 発表の後、全体での意見交換、言語別の意見交換を実施 	<p>会合および発表会への参加</p> <p>適宜メールや Wiki システムで助言・情報共有</p>

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・会合 <u>34</u> のフィードバックを得て改善 ・<u>会合 5</u> 本事業の成果と課題の整理・総括 	適宜メールや Wiki システムで助言・情報共有
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本外国語教育推進機構 JACTFL シンポジウム分科会での発表 (3/11) ・研究成果のウェブサイトへの掲載準備 ・<u>研究担当者 (スペイン語) の GIDE&TADESKA 合同企画 (「第 9 回 関西スペイン語教師の集い」) への参加 (於大阪)</u> ・<u>研究担当者 (フランス語) の関西フランス語教育研究会への参加・発表</u> 	<p>シンポジウムへの参加</p> <p><u>運営指導委員 (フランス語) のフランス語教授法研究会への参加</u></p>
【その他の取組】※あれば記入		

研究開発課題

* 新学習指導要領を踏まえた下記2項目に留意すると5言語共通の方針のもとに単元指導案を作成し、実践する。

A: 育成すべき資質・能力の3つの柱(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう態度」)

B: 指導目標の5領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」)

取組内容

取組①

単元目標として様々なパフォーマンス課題を設定し、これを実現させるために授業の逆向き設計を行う。

取組②-1

単元を通じて養われるべき力を、育成すべき資質・能力の3つの柱別の目標として明確化する。

取組②-2

「知識・技能」観点について、既習事項の参照、Can-doリストの活用により効果的な習得をめざす。

取組③

単元を通じて、5領域の力が総合的に養われるように、授業をデザインする。過程、

成果①

「自分の関心のある人」、「進路・将来の夢を語る」などのプレゼン、「道案内」、「学校案内」、「買い物」などのタスクのパフォーマンス課題を、生徒が自分自身にとって身近で意味のあるテーマととらえ、意欲的に取り組んだことが、教師の観察から明らかとなった。

成果②

目標の明確化により、聴衆・相手を意識したプレゼン発表やタスク達成、論理的な表現力、進路意識の深化、自己肯定感の確認につなげることができた。言語間の異同に関心をもち学ぼうとするなど、学習意欲が向上したことが、生徒の感想などから明らかとなった。学習成果を進路実現に生かそうとするケースもあった。

成果②-2

課題の達成にあたって、既習事項を参照する生徒も見られた。Can-doリストは、仏語教科書において生徒に提示、韓国語では指導案作成にあたって参照した。

成果③

原稿作成により「書く」力、プレゼン発表により「話す(発表)」力、および他者の発表を「聞く」力を養うことができた。発表後の質疑や、タスク達成により「話す(やり取り)」力を一定育成できたことが、生徒の感想などから明らかとなった。

研究の成果と課題

「自分の関心のある人」、「進路・将来の夢を語る」などのプレゼン、「道案内」、「学校案内」、「買い物」などのタスクのパフォーマンス課題を、生徒が自分自身にとって身近で意味のあるテーマととらえ、意欲的に取り組むことができた。3つの柱別に目標を明確化して指導することにより、聴衆・相手を意識したプレゼン発表やタスク達成、論理的な表現力、進路意識の深化、自己肯定感の確認につなげることができた。言語間の異同に関心をもち学ぼうとするなど、学習意欲が向上したことが、生徒の感想などから明らかとなった。学習成果を進路実現に生かそうとするケースもあった。一方、既習事項の参照は部分的であり、Can-doリストについては、一部言語で提示・参照したにとどまるなどの課題が残った。また、原稿作成により「書く」力、プレゼン発表により「話す(発表)」力、および他者の発表を「聞く」力を一定養うことができたが、発表に関する質疑は日本語に頼りがちなケースもあり、「話す(やり取り)」力の育成については、今後の課題である。効果的なスキヤホールディングが必要であろう。

今回は、いずれの言語も、単数または少数の単元での実施であったが、今後は複数の単元、複数の学年でもパフォーマンス課題を目標とする単元指導案を作成し実践を試み、その成果を年間授業計画にどのように反映できるのか検討していきたい。また、新しい指導・評価手法や、英語教育における成果、および海外の先進事例について研究をすすめ、その結果を本事業に反映していきたい。(太字は課題)

研究開発課題

* 新学習指導要領を踏まえた下記2項目に留意すると5言語共通の方針のもとに単元指導案を作成し、実践する。
 A: 育成すべき資質・能力の3つの柱(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう態度」)
 B: 指導目標の5領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」)

取組内容

取組①
 単元目標としてパフォーマンス課題(プレゼン発表)を設定し、これを實現させるために授業の逆向き設計を行う。

取組②-1
 単元②-1単元を通じて養われるべき力を、資質・能力の3つの柱別の目標として明確化する。

取組②-2
 「知識・技能」観点について、既習事項の整理、Can-doリストの活用により効果的な習得をめざす。

取組③
 単元を通じて、5領域の力が総合的に養われるように、授業をデザインする。

成果①
 「自分の関心のある人」、「進路を語る」の2つの単元を設定した結果、生徒が、自分自身にとって意味のあるテーマととらえ、意欲的に取り組んだ。教師の観察
 * ゴール設定以前に比べて、原稿の作成・修正等に授業外時間も使いつつ教師とやり取りするなど、熱心に取り組む様子が見られた。

成果②-1
 目標の明確化することにより、聴衆を意識したプレゼン発表、および進路意識の進化、自己肯定感の確認、今後の学習意欲の向上につなげることができた。生徒の感想
 * 発表を通して自分の進路をあらためて考えることができた。
 * もっと勉強してスラスラと文章を読んだりしたい。

成果②-2
 既習事項の整理提示を、例文に盛り込むかたちで行った。授業計画作成にあたって、「学習のめやす」のCan-doリスト参照した。

成果③
 原稿作成により「書く」力、プレゼン発表により「話す(発表)」力、および他者の発表を「聞く」力を一定養うことができた。生徒の感想
 * 聞きなれない言葉だったので発音が難しかったですが、いい機会だった。

研究の成果と課題

「自分の関心のある人」、「進路を語る」の単元目標としてパフォーマンス課題(プレゼン発表)を設定して授業を逆向き設計することにより、生徒が、自分自身にとって意味のあるテーマととらえ、意欲的に取り組むことができた。資質・能力の3つの柱別に目標を明確化して指導することにより、聴衆を意識したプレゼン発表、および進路意識の進化、自己肯定感の確認、今後の学習意欲の向上につなげることができた。一方、既習事項の整理が不明確であったり、Can-doリストを授業計画作成にあたって参照したものの、生徒には提示できなかったなどの課題が残ったので、活用方法を検討したい。また、原稿作成により「書く」力、プレゼン発表により「話す(発表)」力、および他者の発表を「聞く」力を一定養うことができたが、発表に関する質疑は日本語に頼りがちなため、「話す(やり取り)」力の育成については、不十分であった。効果的なスキャホールドデザインが必要である。今回は、学習2年目の学習動機が高い生徒対象であったが、今後は学習動機が必ずしも高くない1年目クラスにおいても、パフォーマンス課題を目標とする単元指導案を作成し実践を試みたい。さらに、複数の単元での実施し、その成果を年間授業計画にどのように反映できるのか、今後検討していきたい。(太字は課題)

単元指導案
■単元案の概要

1 単元名 進路を語る					
2 実施するクラスの状況等	韓国語/韓国朝鮮語Ⅱ 3年生、4年生、聴講生 3年生3名(内1名は中国語母語話者)、4年生1名、聴講生2名	実施時期 10月初	言語レベル A1	単元の授業時数(50分×3回など)	4時間(45分×4回)
	2		使用教材		生越直樹・喜瀬「ことばの架け橋 改訂版」

3 単元の目標	この単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動(パフォーマンス課題)				
自分の進路について、他の受講生や韓国語母語話者にわかりやすく伝え、その内容についてやりとりする。					
育成すべき資質・能力の三つの柱					
個別の知識や技能(何を理解しているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)			
<p>「これから発表を始めます」(시금부터 발표를 시작하겠습니다)「以上で発表を終わります」(이상으로 발표를 마치겠습니다)など、プレゼンテーションを開始したり終了するための表現。</p> <p>(この単元で参照する既習事項) ・「～したい」(-고 싶다), 「～になる」(-가 /이 되다)等の表現。 ・助詞「～は(은/는)」, 「～が(이/가)」, 「～に」(에), 「～を(을/를)」, 「～と(와/과, 하고)」など。</p>	<p>自分の進路について発表するのに、必要な情報を調べる力。 ・韓国語辞書や翻訳サイト等を使って、適切な韓国語で表現する力。 ・発表する内容について、聴者が気づきやすいキーワードを入れるなどして、聴者がおおよそわかるように伝える力。 ・文の切れ目を意識しつつ、わかりやすく発表する力。</p>	<p>発表者だけでなく聴者も、他人の進路について関心をもとうとする態度。 ・発表する進路について、発表者も聴者も自分との関わりを少しでもつかみ、自分の今後の生き方の中で参考にしようとする態度。</p>			
(文化と社会への気づきのポイント) ①発表者、聴者の進路や今後の生き方の中で、関わりのあること、意義の確認、発見はあるのか。②他の発表者の発表を聴いて、新発見や収穫はあるのか。					

4 単元の評価方法	形成的評価	総括的評価
<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語での表現の仕方が難しい語や文を教員とともにどのように把握し解決していくか。 ・事前提出の発表原稿を一定分量書くことができるか。 ・発表者は確信をもって発表できているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容について、発表者、聴者、教員の間で共有し理解しようとしているか。 ・韓国語そのものだけでなく、韓国語を通して韓国、日本、アジア、世界、韓国語以外のこと、そして身の周りのことにも関心を拡大しているか。

■単元の指導計画

次	ねらい(授業をとおして、生徒がどう変容しているか)	学習内容	学習活動	言語の5つの領域の目標					評価規準	評価方法
				聞く	読む	話す(やりとり)	話す(発表)	書く		
1	自分の進路について調査し、文として表現できる(なぜ進路を選択したのかについて意識化する)。	<ul style="list-style-type: none"> 進路に対する調査 他の受講生や教員とのやりとり 	発表者による進路の紹介 聴者による把握、理解	日本語での活動のためなし	日本語での活動のためなし			進路選択の理由が明確か。 聴者は進路内容を把握、理解できるか。 聴者が理解できるように提示できるか。	行動の観察(生徒の事前メモ) 行動の観察(生徒の反応) 記述の観察(発表の内容)	
2	各自が準備してきた内容について、既習事項やインターネット等を使ってできる限り韓国語に直す。	<ul style="list-style-type: none"> スマホやインターネットを使って韓国語による表現を試みる。 ・教員とのやりとり 	<p>教師が提示したモデル文を理解する。 저는 초등학교 5학년 때 입원했어요. 그 때 의사 선생님은 열심히 치료해 주셨어요. 그 경험이 제가 돼 저는 의사가 되려고 해요. 의과대학에 진학하고 싶어요. 장래 이슬람 세계에서 의사로서 활동하고 싶어요. (私は小学校5年のときに入院しました。そのとき医師は一生懸命治療してくださいました。そのことがきっかけで私は医師になりたいと思います。医学部へ行きたいです。将来、イスラム世界で医師として活動したいです。)</p> <p>スマホやインターネットの翻訳機能を使いながら、短文を作り読む。 教員のアドバイスを得ながら、短文を修正し、読む。 短文を組み合わせて発表文を作る。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	声を出し、はっきり発話することができるか。 声を出し、はっきり発話することができるか。 辞書アプリや翻訳サイトに接続し、利用できるか。 発音をチェックし声を出して読むことができるか。 意味を考えつつ、抑揚、文の切れ目に注意して発話することができるか。 意味を考えつつ、抑揚、文の切れ目に注意して発話することができるか。 発音、そして意味をどれくらい正確に聴き取ることができるか。 内容を正確に伝え、受け取ることができるか。 内容について短文で質疑応答できるか。	行動の確認(練習の様子) 行動の確認(練習の様子) 行動の確認(準備の様子) 行動の確認(練習の様子) 記述の確認(練習の様子) 行動の分析(発表の内容) 記述の分析(ワークシートの記述) 行動の分析(発表の内容) 記述の分析(やりとりの内容)		
3	「進路を語る」発表直前練習	<ul style="list-style-type: none"> 直前練習 発音、文法事項のチェック、確認 	発表文を朗読する。 発音、文法事項のチェック、確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	発音、文法事項のチェック、確認	記述の分析(発表の内容)	
4	「進路を語る」発表	<ul style="list-style-type: none"> 発表者によるふりかえり 聴者・教員によるふりかえり 質疑 	「進路を語る」発表	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	内容が正確に伝え、受け取ることができるか。 内容について短文で質疑応答できるか。	行動の分析(発表の内容) 記述の分析(やりとりの内容)	

授業展開略案

12月19日(火)0限 16:45~17:30

	内容	活動・留意点等	評価の観点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「アンニョンハセヨ」 ・「パンガプスムニダ」 等、挨拶ことば ・講師紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声練習 ・コーラスリーディング ・「ゆっくり大きな声で」指示 ・遠藤が簡単に 	<ul style="list-style-type: none"> ・声が出ているか。 ・正しく発音しようとしているか。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が簡単に自己紹介 ・生徒が講師に質問する形式で講師のことを訊く ・講師が生徒に質問する形式で生徒のことを訊く 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の答を生徒はメモをする。 ・他人の答もメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音の正確さ ・声・目線・態度 ・流暢さ ・内容のわかりやすさ ・関心の拡大
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート完成 ・次回の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートが書けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分だけではなく、他の生徒のやりとりについても記しているか。

12月20日(水)0限 16:45~17:30

	内容	活動・留意点等	評価の観点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「アンニョンハセヨ」 ・「パンガプスムニダ」 等、挨拶ことば 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声練習 ・コーラスリーディング 	<ul style="list-style-type: none"> ・声が出ているか。 ・正しく発音しようとしているか。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・本日举行なう「進路を語る」紹介 ・生徒一人ずつ「進路を語る」 ・講師が生徒に一人ずつ簡単な質問をする ・「韓国のここが知りたい」(時間があれば) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆっくり大きな声で」指示 ・講師の答を生徒はメモをする。 ・他人の答もメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音の正確さ ・声・目線・態度 ・流暢さ ・内容のわかりやすさ ・関心の拡大
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート完成 ・感想文記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートが書けているか。 ・感想が書けているか確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分だけではなく、他の生徒のやりとりについても記しているか。

発表者の なまえ	どのような内容でしたか。(上段)	A~Eについてがんばりポイントを ○してください				
	質問(下段)	がんばりポイント	5	4	2	1
1		A発音の正確さ				
		B声・目線・態度				
		C流暢(りゅうちょう)さ				
		D内容のわかりやすさ				
		E関心の拡大				
2		A発音の正確さ				
		B声・目線・態度				
		C流暢(りゅうちょう)さ				
		D内容のわかりやすさ				
		E関心の拡大				
3		A発音の正確さ				
		B声・目線・態度				
		C流暢(りゅうちょう)さ				
		D内容のわかりやすさ				
		E関心の拡大				
4		A発音の正確さ				
		B声・目線・態度				
		C流暢(りゅうちょう)さ				
		D内容のわかりやすさ				
		E関心の拡大				
5 自己評価		A発音の正確さ				
		B声・目線・態度				
		C流暢(りゅうちょう)さ				
		D内容のわかりやすさ				
		E関心の拡大				

이름()

目標設定=評価のためのルーブリック				
がんばりポイント	5 目標以上達成	4 目標達成	2 もう少しがんばろう	1 努力が必要
A 発音の正確さ	正確である	ほとんど正確である	やや正確さに欠ける	正確でない点が多い
B 声・目線・態度	相手にわかりやすいようにはっきり大きな声で発表している	大体聴き取ることができる	ところどころ聞こえない声で発表している	聞こえない部分が多く、聴き取りが困難である
C 流暢 <small>(りゅうちょう)</small> さ	全然つかえない	ほとんどつかえない	時々つかえる	よくつかえる
D 内容のわかりやすさ	相手にわかるよう工夫がみられる	大体わかる	ところどころわかりづらいところがある	内容がわかりずらく工夫が必要である。
E 事前準備	十分準備した	大体準備した	やや準備不足である	準備不足である

1 昨日、今日のやりとりと自分の発表をふりかえって…どれかに○を

	とてもよく できた	よくできた	できた	あまりでき なかつた	できなかつ た
自ら안녕하세요?と言えた。					
自ら반갑습니다と言えた。					
発表時の定型表現を言えた。					
進路に関連した学校の名前等を言えた。					
将来、なりたい職業について言えた。					
進路や職業を希望する理由を言えた。					
大きな声で、文の切れ目を意識して言えた。					

2 自分の進路について、留学生からの質問に答えることはできましたか。

よくできた まあまあできた 少しできなかった 全然できなかった

3 発表ややりとりをしながら良かったことを書きましょう。

4 発表ややりとりしながら、気になったこと、うまくいかなかったことを書きましょう。

昨日、今日の感想、이재호 선생님に一言

授業研究ご協力をお願い

2017年度、文部科学省外国語教育強化地域拠点事業が、英語以外の外国語に拡大され、3大学が管理者の指定を受けた。このうち、慶應義塾大学外国語教育研究センターは本校定時制ほか神奈川県内公立3高校を研究指定校とし、中韓独仏西語教員協働による単元指導案の開発を行っている。

以下は「韓国朝鮮語Ⅱ」における単元「進路について語る」のうちの4時間目の授業である。ねらいを授業のなかで生かし実施できているのか検証したいと、参観くださり、改善のための課題等について批評をいただければと考える。

ねらい

「韓国朝鮮語Ⅱ」では7月に「私の関心のある人紹介」発表を行なった。

本授業「私の進路を語る」は、7月に行なった授業の反省等をふまえ、形式等を若干変えて再構成したものである。

生徒自身が自分の進路・将来について、他の受講生にわかりやすく伝え、やりとりすることができると、「主體的・対話的で深い学び」を生徒自身と設計者・支援者である教員がともにどれだけ展開できるのか。「私の進路を語る」では4技能5領域(聞く、読む、話す(やりとり)、話す(発表)、書く)について力を向上させ、生徒による主體的・積極的な調査、学びを促したい。また、本授業を通して生徒自身の関心の拡大を図りたい。

担当者 遠藤正承

日時・教室 2017年10月11日(水)限 16:45～17:30 多様化②棟2階西側

主題 進路について語る。

- 目標
- 1 声を出し、生徒自身が調査し、組み立てたことを発表する。
 - 2 発表することによって充実感・達成感を持つことができるようにする。
 - 3 他の生徒が発表した内容を聞き、理解し、質問できるようにする。
 - 4 既習の文法項目をできるだけ使えるようにする。
 - 5 学習を通して韓国語、さらにさまざまな進路・職業に興味関心が持てるようにする。

教材 ・生越直樹・曹喜澈『韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋 改訂版』白帝社
・ワークシート

受講生徒 3年3名(うち1名は中国語母語)、4年1名、聴講生2名 計6名

	内容	活動・留意点等	評価の観点
導入	・「アンニョンハセヨ」等、挨拶 ・本日の発表に関連したキーワード	・発声練習 ・コーラスリーダーディング	・声が出ているか。 ・正しく発音しようとしているか。
展開	・「進路について語る」発表 ・聞いている生徒による質問と回答 ・教員による質問と回答	・「ゆっくり、大きな声で」指示 ・聞いている生徒は発表者の内容を聞き取り、ワークシートにメモする。 ・質問事項を一つメモする。	・発音の正確さ ・声・目線・態度 ・流暢さ ・内容のわかりやすさ ・関心の拡大
整理	・ワークシート完成 ・感想と確認	・各々の努力のふりかえり	・他の生徒の発表について感想を記しているか。

付記 12月に母語話者を呼び、「私の関心のある人紹介」「私の進路を語る」を話題に語り合う授業を行なう予定である。

授業研究ご協力をお願い

2017年度、文部科学省外国語教育強化地域拠点事業が英語以外の外国語に拡大され、3大学が管理者の指定を受けました。このうち慶應義塾大学外国語教育研究センターは、本校定時制ほか神奈川県内公立3高校を研究指定校とし、中韓独仏西語教員協働による単元指導案の開発を行っています。

以下は「韓国朝鮮語Ⅱ」における単元「韓国語で話そう」のうちの4・5時間目の授業です。ねらいを授業のなかで生かし実施できているのか検証したいと考えております。ご多忙中大変恐縮ですが、参観くださり、改善のための課題等についてご助言、批評をいただきたくお願い申し上げます。

ねらい

「韓国朝鮮語Ⅱ」では7月に「私の関心のある人紹介」発表、10月に「私の進路を語る」発表を行なった。

生徒がこれまで学んできたことを生かし、韓国語母語話者とできる限り日本語を使わずにやりとりすることができているのか。「主體的・対話的で深い学び」を生徒自身と設計者・支援者である教員がともにどれだけ展開できるのか。単元「韓国語で話そう」では、4技能5領域(聞く、読む、話す(やりとり)、話す(発表)、書く)のうち、「話す(やりとり)」「聞く」を重視する。本授業では、生徒による主體的な学びへの意欲を促したい。さらに韓国語にとどまらず韓国文化等への関心が拡大できるように促したい。

担当者 遠藤正承

定時制、地歴公民、外国語(韓国語)

講師 李在鎬 イジュホ

韓国蔚山 ウルサン 出身。東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻 博士課程在学中。

日時・教室 2017年12月19日(火)・20日(水)限 16:45～17:30 多様化①②棟2階西側

主題 韓国語で話そう!

目標 1 韓国語母語話者の韓国語を聞き取り、理解し、親しむ。

2 自己紹介、「進路を語る」等を話題に、知っている韓国語を使って韓国語母語話者と話すことで、コミュニケーション能力向上をはかる。

3 韓国語母語話者との会話によって、充実感・達成感を持つことができるようにする。

4 講師と他の生徒との会話内容を聞き、理解し、質問できるようにする。

5 既習の文法項目をできるだけ使えるようにする。

6 学習を通して韓国の文化や若者に興味関心が持てるようにする。

教材 ・生越直樹・曹喜澈『韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋 改訂版』白帝社

受講生徒 3年3名(うち1名は中国語母語)、4年1名、聴講生2名 計6名

生徒が主体的に学ぶ韓国語授業をめざして —2017年度「韓国朝鮮語Ⅱ」における単元指導案作成の試みから—

遠藤正承(神奈川県立横浜翠嵐高等学校定時制)

1 どのような授業をめざすのか

2017年度、文部科学省外国語教育強化地域拠点事業が、英語以外の外国語に拡大され、3大学が管理者の指定を受けた。このうち慶應義塾大学外国語教育研究センターは、筆者の勤務校である横浜翠嵐高校定時制ほか神奈川県内公私立3高校を研究指定校とした。現在研究指定校では中韓独仏西語教員協働による単元指導案の研究開発を行なっている。

勤務校では筆者が研究担当者となって、「韓国朝鮮語Ⅱ」の授業において研究開発を行なってきた。対象となる授業受講者は前年度「韓国朝鮮語Ⅰ」において50時間(1時間あたり45分)程度学んだ生徒たちである。社会人聴講生を含め6名である。中学時代不登校であった、全日制高校に不合格だった、外国からやってきて日本語を母語としない、等々といったさまざまな生徒が多く学ぶ勤務校にあって、韓国語学習に意欲的な生徒たちである。

筆者は一単元4時間の単元指導案を二種類作成した。第一弾として7月に「私に関心のある人を紹介する」について、第二弾として10月に「進路を語る」について、それぞれ生徒が調べ発表する形式の授業を行なった¹。本稿では「進路を語る」を中心に行なった授業について考察したい。

どのような授業をめざし、設計するのか、筆者は外国語学習の5領域を意識しつつ、つぎのように考えた。

- 一 生徒が主体的に取り組める授業
- 二 生徒自ら考えることができる授業
- 三 生徒自ら学ぶ意欲を持てる授業

2 単元指導案作成を試みつつ実践した授業

2.1 「私に関心のある人を紹介する」の内容

この単元指導案では「単元の目標 単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動」を「取り上げた人物は何をしてきた人か、している人か、その人物に関連したことからや事績について、他の受講生や韓国語母語話者にわかりやすく伝え、やりとりすることができる」こととした。

本単元では全4時間構成の指導計画の2時間目において「スマホやインターネットを使って韓国語による表現を試みる」こととした。生徒が自らの興味関心にしがたってB5用紙

¹ さらに、第一弾、第二弾で掲げた「韓国語母語話者にわかりやすく伝えやりとりすることができる」という単元目標を実際に検証することも兼ね、第三弾として韓国語母語話者を招き、母語話者と韓国語でやりとりする「韓国語で話そう」を行なった。また、書いて他人に伝えることをめざした第四弾「書藝(ハングル書道)」を実施した。

一枚程度韓国語でまとめるよう指示した。

生徒が関心のある人物として取り上げたのは、「疎開時の恩師」「チェ・ゲバラ」「趙麗穎 (Zhào Liyǐng)」「AAA(トリプルエイ)」「高校時代の恩師」である。この発表では、生徒相互も筆者自身も初めて知ることが多かった。教員生徒ともに単元指導案の「単元の評価方法 総括的評価」にかかげた「韓国語そのものだけではなく、韓国語を通して韓国、日本、アジア、世界、韓国語以外のこと、そして身の周りのことにも関心を拡大して」いくこととなった。筆者は中国の俳優趙麗穎 (Zhào Liyǐng) が出演した『陸貞傳奇』が、韓国MBCにおいて『여상옥정(女相陸貞)』という名で放送されていたことも初めて知った。

図表1 「進路を語る」単元指導案

単元指導案		作成者：遠藤正承(横浜翠嵐高校定時制)		
■単元案の概要				
1 単元名				
進路を語る				
2 実施するクラスの状況等				
言語/科目名	韓国語/韓国朝鮮語Ⅱ	実施時期	10月初	
学習年次	3年生、4年生、聴講生	言語レベル	A1	
クラスの状況	3年生の内1名は中国語母語話者、4年生は、聴講生	単元の授業時数(50分×3回など)	48時間(45分×4回)	
単位数	2	使用教材	生徒直樹・曹喜淑「ことばの壁け橋 改訂版」	
3 単元の目標				
この単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動				
自分の進路について、他の受講生や韓国語母語話者にわかりやすく伝え、やりとりすることができる。				
知識・技能	GAN-DOLIST	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
<ul style="list-style-type: none"> 「～した」等の文を使えるか。 既習の語や文、文法を使えるか。 進路についてどれくらい説明できるか。 韓国語辞書や翻訳サイト等を使って韓国語で表現できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 【進路や職業が】進路に期待した学校の名前、専攻を言ったり書いたりできる。 【進路や職業が】なりたいたい職業について、口頭でまたは書いて紹介することができる。 【進路や職業が】希望する理由について、口頭でまたは書いて紹介することができる。 【人とのつきあひが】→改：人とのつきあいで使う基本的な表現(初対面)を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表する内容について、聴者がおおよそわかるように伝えられるか。 発表の中に聴者が気づきやすいキーワードを入られるか。 文の切れ目を意識しつつ発表できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表者だけでなく聴者も、他人の進路について関心をもつことができるか。 発表する進路について、発表者も聴者も自分の今後の生き方の中で参考にすることができるか。 	
(この単元で参照する既習事項)	<ul style="list-style-type: none"> 「～고 싶다～した」 「～가/이 뭐다～になる」の表現 助詞「～は」「～が」「～に」「～を」「～と」 	<ul style="list-style-type: none"> 【人とのつきあひが】→改：招くときに交わす基本的な表現を言うことができる。 【発表が】→発表時の定型表現を言うことができる。 【発表が】→大きな声で、文の切れ目を意識しつつ発表することができる。 		
(文化と社会への気づきのポイント)				
の発表者、聴者の進路や今後の生き方の中で、関わりのあること、意識の喚起、意見はあるのか、②他の発表者の発表を聴いて、新発見や収穫はあるのか。				

図表2 「進路を語る」指導計画

単元	ねらい(授業中おとして、生徒がどう実習しているか)	学習内容	学習活動	言語の5つの領域の目標				評価基準	評価方法
				聞く	読む	書く	話す		
1	自分の進路について調査し、文として表現できるか(なぜ進路を選択したのか)について意識化できるか。	・進路に対する調査 ・他の受講生や教員とのやりとり	発表者による進路の紹介				○	進路選択の理由が明確か。	行動の観察(生徒の事前メモ)
			聴者による把握、理解	○				聴者は進路内容を把握、理解できるか。	行動の観察(生徒の反応)
			発表する上でのキーワードを1つ紹介			○	○	聴者が理解できるように提示できるか。	記述の観察(発表の内容)
2	各自が準備してきた内容について、既習事項やインターネット等を使ってできる限り韓国語に直せるか。	・スマホやインターネットを使って韓国語による表現を試みる。 ・教員とのやりとり	紹介するとき冒頭と最後に使う定型文		○		○	声を出し、はっきり発話することができるか。	行動の確認(練習の様子)
			スマホやインターネットを使って短文を作り、読む。	○	○		○	辞書アプリや翻訳サイトに接続し、利用できるか。	行動の確認(準備の様子)
			教員に漢字から短文を作り、読む。	○	○	○		発音をチェックし声を出して読むことができるか。	行動の確認(練習の様子)
3	「進路を語る」発表直前練習	・直前練習 ・発音、文法事項のチェック、確認	短文を並べ、発表文を作る。				○	意味を考えつつ、抑揚、文の切れ目に注意して発話することができるか。	記述の確認(練習の様子)
			発表文を朗読する。	○			○	意味を考えつつ、抑揚、文の切れ目に注意して発話することができるか。	行動の分析(発表の内容)
4	「進路を語る」発表	・発表者によるふりかえり ・聴者・教員によるふりかえり ・質疑	「進路を語る」発表	○			○	内容を正確に伝え、受け取るることができるか。	行動の分析(発表の内容)
			発表者、聴者、教員による質疑、ワークシート記入				○	内容について短文で質疑応答できるか。	記述の分析(やりとりの内容)

2.2 「進路を語る」²の内容

「私に関心のある人を紹介する」では一人あたりの発表に多くの時間を割いたため、質問ややりとりの時間をとることはできなかった。このことを反省し、「進路を語る」では発表の分量をB5用紙で5～6行くらいにするよう制限し、質問の時間をとれるようにした。

本単元も全4時間構成とし、4時間目で発表および発表に対するふりかえりを行なえるようにした。単元指導案および単元指導計画は図表1、2に記した。

ここでは「3 単元の目標 この単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動」を「自分の進路について、他の受講生や韓国語母語話者にわかりやすく伝え、やりとりすることができる」こととし、さらに「知識・技能」「CAN-DO リスト」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」それぞれの面で目標を定めた。

生徒が作成した「進路を語る」の内容は「社会福祉関連の大学に行く」「ヘアメイクアップアーティストをめざす」「ファッションデザイナーをめざす」「ステンレス会社で働いた」「韓国でrapperになる」である。このうち「ステンレス会社で働いた」は社会人聴講生がこれまでしてきた仕事について語ったものである。

2.3 「進路を語る」発表準備について

生徒にはまずつぎの①から④のように示した。①では発表テーマに沿って、あえて「～를/을 좋아하다」「～가/이 되다」「～고 싶다」「합니다体」「해요体」、過去形、尊敬形等、既習の文法事項等を入れた。

① 5行程度とする。韓国語でまとめる。今回は해요(へヨ)体で。

보기 저는 초등학교 5학년 때 입원했어요.

그 때 의사 선생님은 열심히 치료해 주셨어요.

그 경험이 계기가 돼 저는 의사가 되려고 해요.

의과대학에 진학하고 싶어요.

장래 이슬람 세계에서 의사로서 활동하고 싶어요.

例 私は小学校5年のときに入院しました。

そのとき医師は一生懸命治療してくださいました。

そのことがきっかけで私は医師になりたいと思います。

医学部へ行きたいです。

将来、イスラム世界で医師として活動したいです。

² 「進路を語る」に関連した先行実践研究として中川正臣『「夢や目標を韓国語で語ろう」プロジェクトの実践』(2017年9月17日、朝鮮語教育学会での発表ハンドアウト)がある。中川氏は「韓国語クラスに学習動機が低かったり、大学生活のその後の進路に目標を見失っている」「彼らが大学生活で直面する課題であるキャリアデザインに役立てたいと考えた」とこのプロジェクト立ち上げの背景を記している。韓国語授業を通してキャリアデザインを考えさせる積極的な試みであると思われる。

②教科書、翻訳サイト、辞書アプリ、辞書(紙)、辞書(電子辞典)等をつかう。

《参考 翻訳サイト》

・excite 翻訳 <https://www.excite.co.jp/world/korean/>

・NAVER 翻訳

https://search.naver.com/search.naver?where=nexearch&sm=top_hy&fbm=1&ie=utf8&query=%EC%9D%BC%EB%B3%B8%EC%96%B4%EB%B2%88%EC%97%AD%EA%B8%B0

・グーグル翻訳 <https://translate.google.co.jp/?hl=ja>

こののち、以下③～⑩の手順で授業を行なった。

③筆者は生徒の質問を受けながら答えていった。

④生徒が作った文を見て、最小限直した。

例 **복식의 관련의 대학교에 가고 지식과 기술을 배우고 싶습니다.**

⑤文が完成した後、各生徒に音読させた。

⑥音読させながら発音のチェックをした。

ここでは本来韓国語母語話者によるチェックがほしいが.....。

⑦文の区切りを入れた方がよい箇所を指示した。

⑧その後、音読練習を数度行なった。

⑨他人の発表内容を理解させた。

⑩他人の発表内容に関する質問内容を考えさせた。

2.4 「進路を語る」4時間目授業の指導案

ねらい 「韓国朝鮮語Ⅱ」では7月に「私が関心のある人を紹介する」発表を行なった。

本授業「進路を語る」は、7月に行なった授業の反省等をふまえ、形式等を若干変えて再構成したものである。

生徒自身が自分の進路・将来について、他の受講生にわかりやすく伝え、やりとりすることができるのか。「主体的・対話的で深い学び」を生徒自身と設計者・支援者である教員がともにどれだけ展開できるのか。本授業「進路を語る」では4技能5領域(聞く、読む、話す(やりとり)、話す(発表)、書く)について力を向上させ、生徒による主体的・積極的な調査、学びを促したい。また、本授業を通して生徒自身の関心の拡大を図りたい。

日時 2017年10月11日(水)0限 16:45～17:30

主題 私の進路を語る。

目標 1 声を出し、生徒自身が調査し、組み立てたことを発表する。

2 発表することによって充実感・達成感を持つことができるようにする。

3 他の生徒が発表した内容を聞き、理解し、質問できるようにする。

4 既習の文法項目をできるだけ使えるようにする。

5 学習を通して韓国語、さらにさまざまな進路・職業に興味関心が持てるようになる。

受講生徒 3年3名(うち1名は中国語母語)、4年1名、聴講生2名 計6名

	内容	活動・留意点等	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・「アンニョンハセヨ」等、挨拶ことば ・本日の発表に関連したキーワード 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声練習 ・コーラスリーディング 	<ul style="list-style-type: none"> ・声が出ているか。 ・正しく発音しようとしているか。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路を語る」発表 ・聞いている生徒による質問と回答 ・教員による質問と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆっくり、大きな声で」指示 ・聞いている生徒は発表者の内容を聞き取り、ワークシートにメモする。 ・質問事項を一つメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音の正確さ ・声・目線・態度 ・流暢さ ・内容のわかりやすさ ・関心の拡大
整 理	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート完成 ・感想と確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の努力のふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の発表について感想を記しているか。

2.5 「進路を語る」ワークシート

各発表に対して、図表 3 のようなワークシートを記入させた。キーワードを示したことや、発表の最後に日本語での要約もさせたので、生徒はおおよそのところをつかめたのではないかと思える。

図表3 「進路を語る」ワークシート

진로를 이야기 하자!		2017년 10월 11일				
発表者の なまえ	どのような内容でしたか。(上段)	A～Eについてがんばりポイントを ○してください				
	質問(下段)	がんばりポイント	5	4	2	1
1		A発音の正確さ				
		B声・目線・態度				
		C流暢(리ゆうちょう)さ				
		D内容のわかりやすさ				
		E関心の拡大				
中 略						
5 自己評価		A発音の正確さ				
		B声・目線・態度				
		C流暢(리ゆうちょう)さ				
		D内容のわかりやすさ				
		E関心の拡大				

2.6 「進路を語る」発表を行なって…生徒によるふりかえり

発表終了後、生徒が記入した感想・反省を紹介したい(ゴチは遠藤による)。

A：10月11日の「進路を語る」を通じて、まず自分から感想を述べると、あまり人前で自分の進路をしゃべる機会がなかったので、とても自分にとって印象に残った発表だったと思います。また、一回目の発表と違い、あまり文章が長くなかったので、相手の文章を理解するにはちょうどいい、ベストな発表だったと個人的には思いました。ただもっと自分のやりたいことの主張を強く書けば良かったかなと思いました。

他の人の発表では「服飾デザインの学校」では、発表を聞いていると、よほど本人がファッションデザイナーの夢を追っている気持ちが伝わってきました。自分はあまり韓国語は得意ではないのですが、自分の気持ちを相手に伝えることは、たとえ言語が違っても気持ちを読み取ることが出来ると感じました。

また「ヘアメイクアーティスト」の発表では、「人々の魅力を引き出せる様なヘアメイクアーティストになりたい」と言っていたことに対して、Bさんの本気度や目的意識がはっきりしていて、正直おどろきました。

最後にDさんのステンレス会社に就職してから定年まで働いていたと聞き、とてもステンレス会社で力強く働いていたような気がしました。定年後、語学の勉強やフルートの練習など、多様な特技があり、また発表の最後で黒板を使い、丁寧に説明をされていて、とても印象に残りました。

発表が終わって一つだけ残念なことは、ラップの発表を聞くことが出来なかったことで

す。もし聞けたなら「ラップとはどのような音楽なのか」「どのようなラップをつくりたいのか」を聞いてみたかったです。

B：韓国語で進路について発表したことについて

いつもは日本語でしか、話すことが多いので新鮮でした。また、緊張もしたけれど、昨年自分のことについて発表して、その引き続き、自分の進路のことについて発表できて良かったです。発表するときに少しつまづいたときもあったけど、次の文章をしっかりと読むことができました。

これからは文章の発音をしっかりと理解し勉強したいと思いました。また、もっと韓国語の勉強をして、スラスラと文章を読んだり、日本語をすぐに訳せるようになりたいです。

見学に来ていた先生にすごいね!!と褒められ嬉しかったです。

他の方の発表について

すごく内容が深く、なるほどなと思いました。

夢に向かって勉強している人や、今までいろいろな経験をしてきた人などさまざまな将来過去があり、私も、もっと頑張ろうと思いました。

C：「進路を語る」の発表を通して、自分の進路もしくはやりたいことをあらためて考えることができました。また、他人の進路についてもさまざまですが、それぞれきっかけがあり、聞いてよかったです。自分の発表に関しては、事前に内容を覚えたりして、前を見ながら発表できたらよかったですと思いました。また、内容の翻訳はサイトに頼ってばかりで、時間を設けて自分で勉強したことを活かして考えるべきでありました。

それぞれの進路に合わせて、何枚の写真も上げていた事にイメージがつかめやすかったです。聞き慣れていない言語だったので、所々の発音が難しかったです、いい機会でした。

D：皆さんの将来の進路について、それなりの希望を持って頑張っておられる様で、楽しい限り聞きました。初心を忘れずに励めてもらいたいと思います。先の余りない小生にとっては、現在の時点をがんばって一日を過ごすことが何よりです。その意味で毎日楽しく恙なく生活している事が何よりと思っています。

一方で消極的な生活態度ではなく、より積極的に前向きに生きる方策を考えねばと日頃思っています。みなさんそれぞれの目標を貫徹してもらいたいと思っている次第です。

3 成果と課題

発表という形式はどうしても生徒の主体的で意欲的な関わりを必要とする。

まず、何を発表するかが明確でなければならない。発表する内容が固まったならば、それを韓国語に変換しなければならない。韓国語に変換するには現在までの学習の蓄積を生かし、さらにもう一つ上のホールドをつかみながら上がっていかなければならない。

生徒は既習の文法事項も生かしつつ、パソコンやスマホの翻訳サイトや辞書機能を使って翻訳を試みた。

生徒に紹介した翻訳サイトは「excite 翻訳」等 3 種であるが、他に良いものがあれば紹

介するようなげかけた。

実は、翻訳サイトを使えば簡単に正しく翻訳できるわけではない。翻訳サイトを使うにあたり、筆者は生徒に「なるべく短文でわかりやすい日本語を翻訳サイトにかける」、「翻訳した短文をつなげる」よう指示した。生徒は「~게 되다」「~ㄴ 수 있다」「~기 때문」を使ったり、「絵を描く」は何とのかとといったことを調べながら、既習事項を超える作業に取り組んでいった。

こうして四苦八苦の末、発表文の下原稿ができあがる。原稿を見た筆者は、吟味検討、基本的な誤りは修正しつつ本原稿を完成していく。「해아메이크업아티스트」という外来語は韓国語でも使われているのかな?」と言いつつ、筆者もスマホで DAUM 検索しながら生徒が書いた「해아메이크업아티스트」を「헤어메이크업아티스트」に直した。日本語の「~して」と「~しながら」は区別が難しい場合があるが、生徒が作成した文を見ながら「~하고」を「~하면서」に直したりした。「『ブランド』は『브랜드』でいいかな?『명품』の方がいいかな?」でも、ここでは『브랜드』にしておこうか」といったやりとりもした。生徒が文を読み上げる過程を見ながら、この文はここでいったん区切りを入れた方がよいといった助言もした。しかし、筆者の考える通りすべて訂正したわけではない。「これでも言いたいことが伝わる」と考えた部分は極力生徒が書いた通りとした。

この作業はまさに生徒と教員の協働作業であった。協働作業に至る過程、協働作業そのものが第一の成果といえる。換言すると、教員とは生徒に「教えてやる」存在ではなく、「教え」「教えられ」、共に学んでいく存在であるということ、この単元を通して改めて確認することができた。

ふだん発表することのあまりない生徒が、日本語ではなく韓国語で発表という機会を通して生徒自分なりの充実感を得られたことは第二の成果である。生徒諸君にとっては前年度の自己紹介の発表、本年度前期の「私に関心のある人を紹介する」発表という下地があったので取り組みやすかったと思われる。もちろん生徒が進路を語るのは母語によるのが本筋であるという批判もあろうが、たとえ短いフレーズで、拙い発音で、しかも正確な文ではないとしても、韓国語で進路を他人に語るということは、そのこと自体大きな自信を得られると筆者は考える。

第三の成果として、Bさんが「もっと韓国語の勉強をして、スラスラと文章を読んだり、日本語をすぐに訳せるようになりたいです」と記しているように、充実感にとどまらず今後の学習意欲を促進したことをあげることができる。

第四の成果として、Cさんが「自分の進路もしくはやりたいことをあらためて考えることができました」と記しているように、韓国語そのものではないが、この発表を通して生徒自身が自分の進路について改めて考え直すことになったことをあげることができる。韓国語で語るという行為が、生徒相互の恥かしさや銜いを少なくさせたのではないか。

つぎに課題について記したい。

第一に、本授業は前年度「韓国朝鮮語 I」を履修した、モチベーションの高い生徒であっ

たので成り立ったといえる。そうでなかったならばとうてい成り立たなかったであろう。

第二に、主題に選んだ「進路を語る」は、本年度のメンバーだからこそ成り立ったといえる。そもそも他人の前で自分の進路を語るということ自体、個人情報に属することであり、語りたくない生徒もいるはずである。したがって、このような主題は構成メンバーをみて成り立つかどうかを判断しなければならない。個人のことを他人に語りたくないという生徒が一人でもいる場合、「進路を語る」ではなく「Kポップ」「韓国の流行ファッション」「日韓製造業比較」等、個人情報に抵触せず、取り組みやすい話題について調べさせることもありうるであろう。

第三に、今回各発表者に対する質問と答は、日本語によるやりとりとした。発表を聴いて韓国語で質問するということは高度なことであるが、予め韓国語で設問を用意しておけば対応できたと思われる。また、あらかじめ教員が質問を韓国語で考えて全員に提示し、その答を探しながら発表を聞くという形も生徒にとって取り組みやすいと思われる。

第四に、Cさんが「内容の翻訳はサイトに頼ってばかりで、時間を設けて自分で勉強したことを活かして考えるべき」と記しているが、筆者としては今回の発表に関連して使用可能な既習事項を、予め生徒個々にではなく、またその都度ではなく、全体に一覧にして提示しておけばよかったと反省している。

第五に、発表にあたり、筆者は生徒に対して「大きな声で」「ゆっくりと」と指導したが、アイコンタクト、前に立っての態度等も指導していきたい。

第六に、これまで授業実践しつつ2つの単元指導計画を作成したが、これら2つを含む年間指導計画を作成する必要がある。今年度のこれまでの授業を振り返りつつ再構成してみたい。

4 おわりに

これまで行なってきた筆者の韓国語授業は、対話文を中心に構成されている各單元ごとの対話練習、文型置き換え練習、説明等で終わっていた。時折、韓国の歌を紹介したり、書藝の授業を入れたりしたが、どちらかといえばスポット的な挿入にとどまり、生徒が自発的、意欲的に取り組めるような仕掛けをしてこなかった。

これらのことを反省し、生徒が今回の「進路を語る」のように自ら考え、教師とともに授業づくりをすることを通して、やればできるという自信や自己肯定感をもてるのではないかと考えるに至った。

英語学習では躓いたかもしれないが、韓国語や韓国・朝鮮の文化に親しみ、広く目を外に向けてほしい。できれば日本語とも比較対照しながら韓国語を見、そのことによって日本語をとらえなおしてほしい。これがこの授業にあたった筆者の思いである。

始める前ははたしてどこまで生徒がついてきてくれるか、全く筆者任せになるのではないかという危惧も持ったが、それらは外れ、生徒はよく調べ、よく質問してくれたと総括する。

今後、生徒がどのような進路に進むにしろ、韓国語をさまざまに工夫しながら学習したということを糧として持って行ってほしいと願っている。

今回の授業「進路を語る」は、勤務校英語科の教員に授業を見ていただき、「質疑応答を原語で行うのは確かに難しいので、あらかじめ教員の方で質問を原語で考え、その答えを探しながら発表を聞くという形でもいいかなとも思いました」、「答えも Yes、No や語句を抜き出せば簡単に答えられるもの(when、where、what、who、how)などにします」、「生徒の自然な興味、関心を授業につなげるという点で英語の授業にも応用できるところがありました」等といった貴重な助言・感想をいただいた。ここに記して感謝するとともに、今後も授業改善に向けて検討、工夫を重ねていきたい。

生徒が主体的に学ぶ授業をめざして

ー2017年度「韓国朝鮮語Ⅱ」における単元指導案作成の試みからー

2018.1.21
外国語教育強化地域拠点事業報告会
於 慶應義塾大学日吉キャンパス

遠藤正承(神奈川県立横浜翠嵐高等学校定時制)

パフォーマンス課題をゴールとする授業づくり

- (1)自分が関心のある人を紹介する...7月実施
- (2)自分の進路を語る...10月実施
- (3)韓国語で話そう...12月実施
- (4)書藝(ハングル書道)...1月実施

1 どのような授業をめざすか

- 一 生徒が主体的に取り組める授業
- 二 生徒自らが考えることができる授業
- 三 生徒自ら学ぶ意欲を持てる授業

勤務校

- ・定時制...夜間定時制
- ・横浜駅からバス10～15分または徒歩25分
- ・生徒数...二百数十人
- ・どういう生徒か...全日制高校が不合格だった
全日制高校中退
小・中と不登校だった、いじめにあった
外国から来た、外国につながる(30～40%)
中国、フィリピン、タイ、ベトナム、南米等
他人とのコミュニケーションがうまくとれない
仕事やアルバイトをしていない
定時制高校入試では希望者全入

2017年度担当授業

- ・日本史A(地歴)...外国から来た生徒対象
- ・現代社会(公民)...外国から来た生徒対象
- ・社会福祉基礎(福祉)
- ・韓国朝鮮語Ⅰ、Ⅱ(外国語)

1983年、高校社会科
教員として採用

授業は筆者一人で担当

2004年、高校外国語(韓国語)
教員免許状取得

自由選択科目、ただし修得すれば卒業単位になる。

「韓国朝鮮語Ⅱ」対象生徒

- ・2016年度、韓国朝鮮語Ⅰを修得した生徒 13名
- ・うち卒業した生徒 8名
- ・韓国朝鮮語Ⅱを選択することのできる生徒 5名
- ・その中で韓国朝鮮語Ⅱ選択者 4名

+ 聴講生2名 = 計6名

「韓国朝鮮語Ⅱ」対象生徒

- どのような生徒か、**全日制高校が不合格だった**
 全日制高校中退
 小・中と不登校だった、**いじめにあった**
外国から来た、外国につながる(30~40%)
中国、フィリピン、タイ、ベトナム、南米等
他人とのコミュニケーションがうまくとれない
仕事やアルバイトをしていない

授業で使っている教科書

「韓国朝鮮語Ⅰ」



「韓国朝鮮語Ⅱ」



2 単元指導案作成を試みつつ実践した授業

2.2 「進路を語る」

「3 単元の目標 この単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動」

「自分の進路について、他の受講生や韓国語母語話者にわかりやすく伝え、やりとりすることができる」



4時間目の目標

- 1 声を出し、生徒自身が調査し、組み立てたことを発表する。
- 2 発表することによって充実感・達成感を持つことができるようにする。
- 3 他の生徒が発表した内容を聞き、理解し、質問できるようにする。
- 4 **既習の文法項目**をできるだけ使えるようにする。
- 5 学習を通して韓国語、さらにさまざまな進路・職業に興味関心が持てるようにする。

2.3 「進路を語る」4時間目授業の指導案

4 既習の文法項目

- | | |
|-------------|-------|
| • -를/을 좋아하다 | ~が好きだ |
| • -고 싶다 | ~したい |
| • -가/이 되다 | ~になる |
| • 過去形 | |
| • 尊敬形 | |
| • 합니다体 | します |
| • 해요体 | します |
| • 助詞 など | |

授業作りの手順 一例として

①5行程度とする。韓国語でまとめる。今回は해요(へヨ)体で。

보기저는 초등학교 5학년 때 입원했어요.
 그 때 의사 선생님은 열심히 치료해 주셨어요.
 그 경험에 계기가 돼 저는 의사가 되려고 해요.
 의과대학에 진학하고 싶어요.
 장래 이슬람 세계에서 의사로서 활동하고 싶어요.

例 私は小学校5年のときに入院しました。

そのとき医師は一
 そのことがきっか
 医学部へ行きたい
 将来、イスラム世

既習の「~が好きだ」「~したい」「~になる」、過去形、尊敬形、助詞等をマークした。

②教科書、翻訳サイト、辞書アプリ、辞書(紙)、辞書(電子辞典)等をつかう。

③参考 翻訳サイト

- ・excite翻訳 <https://www.excite.co.jp/world/korean/>
- ・NAVER翻訳

https://search.naver.com/search.naver?where=nexearch&sm=top_hty&fbm=1&ie=utf8&query=%EC%9D%BC%EB%B3%B8%EC%96%B4%EB%B7%88%EC%97%AD%EA%B8%B0

- ・グーグル翻訳 <https://translate.google.com/>

翻訳サイト使用のときは「短い文で」と指示した。

④ほか、使いやすくお勧めのアプリがありましたら紹介してください。

以上のような手順を示した後

- ⑤生徒の質問を受けながら指示していった。
- ⑥生徒が作った文を見て、最小限直した。

복식 **의** 관련의 대학교에 가고 지식과 기술을 배우고 싶습니다.

⑦完成した後、各生徒に音読させた。

⑧音読させながら発音のチェックをした。

ここでは本来韓国語母語話者によるチェックがほしいが.....

⑨文の区切りを入れた方がよい箇所を指示した。

⑩その後、音読練習を数度行なった。

⑪他人の発表内容を理解させた。

⑫他人の発表内容に関する質問内容を考えさせた。

単元指導案		1/4指導者: 池田正幸(池田高等学校教員)
1 単元名		
2 実施するクラスの状況	担任: 池田正幸 学級数: 15 クラス状況: 男子10名 女子5名 人数: 25	学習目標: 15項目 言語レベル: A1 単元の授業時数(90分×授業日): 48時間(6分×48) 単元後: 発表型授業 発表型
3 単元の目標	この単元終了時にできること(パフォーマンス)を挙げる	
知識・技能	ICTのリテラシー	異文化理解力・言語力
		学びに向かう力・人間性

『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』(2013年、国際文化フォーラム)



単元	単元の指導計画	学習活動	活動の5つの領域の目標			評価基準	評価方法
			聞く	読む	書く		
1	自分の進捗について課題し、文として表現できるか(仮訳を添削して)確認したのに対して、修正されたものについて、修正された理由を説明できるか。	発表者による課題の紹介			○	活動進捗の理由が明確か。	行動の継続(定例の事後/日)
		発表者による課題、理解	○			発表者は進捗内容を把握、理解できるか。	行動の継続(定例の反応)
		発表者によるキーワードの紹介		○	○	発表者が理解できるように指示できるか。	記述の継続(発表の内容)
		紹介すると習得した後に英文型文		○	○	発表者、ほっとし笑顔をみせることができるか。	行動の継続(練習の様子)
2	自分の課題した内容について、習得事項やインターネット等を使って確認した内容を確認できるか。	スマホやインターネットを使って英文を作り、読む。	○	○	○	発表者アプリ内翻訳や中に翻訳し、利用できるか。	行動の継続(練習の様子)
		発表者に発表者が発表文を作り、読む。		○	○	発表者チェックし、声を出して読むことができるか。	行動の継続(練習の様子)
		発表文を添削する。		○	○	発表者考えつつ、課題、文の可読性に注意して確認することができるか。	記述の継続(練習の様子)
3	『進捗確認』『発表、文法事項のチェック、確認』	発表文を確認する。	○	○		発表者考えつつ、課題、文の可読性に注意して確認することができるか。	行動の分析(発表の内容)
		発表、文法事項のチェック、確認		○	○	発表、文法事項をどうにか確認できるか。	記述の分析(ワークシートの反応)
4	『進捗確認』『発表』	発表者による発表文の発表	○	○		内容を正確に伝え、受け取ることができるか。	行動の分析(発表の内容)
		発表者、発表による発表、ワークシート記入		○	○	内容について発表で疑問点があるか。	記述の分析(発表の内容)

2.2 「進路を語る」

「3 単元の目標 この単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動」

「自分の進路について、他の受講生や韓国語母語話者にわかりやすく伝え、やりとりすることができる」

以下、2人の生徒に焦点をあてながら授業の様子を紹介します。

주제 테마

진로를 이야기하자! 進路を語る



はじめるにあたって

- **큰 소리로** 大きい声で
- **천천히** ゆっくりと
- **발표하세요.** 発表してください。

はじめるとき

始めるときの定型文

つぎの文をいれてください。

안녕하십니까?

()입니다.

제 발표를 시작하겠습니다.

おえるとき

終わるときの定型文

つぎの文をいれてください。

이상으로 제 발표를 마치겠습니다.
감사합니다.

ワークシートの書きかた

ワークシートの記入方法 記入例

発表者の なまえ	どのような内容でしたか。(上段)	A～Eについてがんばりポイントの 5～1にOしてください。					
	質問(下段)	5	4	3	2	1	
1- 스이람	医師になりたい。	A発音の正確さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	その理由と行きたいところ。	B声・目線・態度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		C流暢(りゅうじょう)さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		D内容のわかりやすさ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	다로	E関心の拡大	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

스이란 타로 씨

• 3年男子

저는 중학교 2학년 때부터 사회복지에 관심이
있었습니다.
이제는 나이드신 분들의 도움이 되는 일을 해 보고
싶었기 때문입니다.
저는 장래 사회복지 관련 의 대학에 진학 하고
싶습니다.
이것으로 제 발표를 마치겠습니다.

訳
私は中学2年の頃から社会福祉に興味がありました。
理由は高齢者の方々の役に立つ仕事がしたいからです。
私は将来社会福祉の大学に進学したいです。
これで私の発表を終わります。



사회복지 관련 의 대학

사회복지 관련 의 대학

社会福祉の大学

- 저는 중학교 2학년 때부터 사회복지에 관심이 있었습니다.
- 이유는 나이드신 분들의 도움이 되는 일을 해 보고 싶었기 때문입니다.
- 저는 장래 사회복지 관련 의 대학에 진학하고 싶습니다.
- 이것으로 제 발표를 마치겠습니다.

生徒によるふりかえり から

- あまり人前で自分の進路をしゃべる機会がなかったので、とても自分にとって印象に残った発表だったと思います。また、一回目の発表と違い、あまり文章が長くなかったので、相手の文章を理解するにはちょうどいい、ベストな発表だったと個人的には思いました。
- 発表が終わって一つだけ残念なことは、ラップの発表を聞くことが出来なかったことです。もし聞けたなら「ラップとはどのような音楽なのか」「どのようなラップをつくりたいのか」を聞いてみたかったです。

教員から

- 中学校のとき、いじめにあう。教師からも。
- ルーツが...
- 韓国語の授業があるので翠嵐高校定時制入学。1時間半かけて通学。
- ふだん、おとなしく自信がない。
- 一年のときは...
- 「私に関心がある人」では、체 가바라について発表するなど社会的関心もある。
- 二回にわたる発表を通して、自信をつけ、大学のAO入試で、韓国語授業のこと、韓国語で発表したことを語る。韓国語については、特に意欲的に勉強している。
- 英語はよくできなかったけど韓国語の勉強はおもしろい。

스이란 하나코 씨

• 3年女子

私は、小学校から中学校まで、コンクールや舞台に立つことがあり、そこで髪の色アレンジをするようになりました。そこから、もっと美容について学びたくて、美容専門学校に入ろうと思います。将来は、モデルこの魅力を引き出せるようなメイクアップアーティストになりたいです。

저는 초등학교 부터 중학교 까지 공쿠르나 무대에 설적이 있어, 거기에서 머리카락의 어레인지용하게 되었어요. 거기에서, 더미용에 대해서 배우고 싶어서 미용 전문학교에 입학하려고 생각한이해요. 장래는 모델의 매력을 끌어낼수있는 해아메이그업아티스트로 활동하고 싶어요.



해아메이크업아티스트

헤어메이크업아티스트

ヘアメイクアップアーティスト

- 저는 초등학교 때부터 중학교까지 콩쿠르나 무대에 설 적이 있어, 거기에서 머리카락의 어레인지를 하게 ~~되예요~~ 되었어요.
- 거기에서 더 미용에 대해서 배우고 싶어서 미용전문학교에 입학하려고 생각 ~~한마해요~~ 했어요.
- 장래는 모델의 매력을 끌어 낼수 있는 헤어메이크업아티스트로 활동하고 싶어요.

生徒によるふりかえり から

- いつもは日本語でしか、話すことが多いので新鮮でした。また、緊張もしたけれど、昨年自分のことについて発表して、その引き続き、自分の進路のことについて発表できて良かったです。発表するときに少しつまづいたときもあったけど、次の文章をしっかりと読むことができました。
- これからは文章の発音をしっかりと理解し勉強したいと思いました。また、もっと韓国語の勉強をして、スラスラと文章を読んだり、日本語をすぐに訳せるようになりたいです。
- 見学に来ていた先生にすごいね!!と褒められ嬉しかったです。

教員から

- 「まじめでこつこつ」というタイプかと思っていたが、コンクールや舞台に立つ経験があるなど、本人なりに人知れずがんばってきた生徒。
- 声は小さいが、前年度からまじめに取り組んできた。
- 授業を通して、とても意欲的になってきており、さらに韓国語能力を向上させたい、と本人は思っている。
- ハングル字母の発音については定着している。
- 将来、韓国語ができるヘアメイクアップアーティストになってほしい。

3. 成果と課題

成果

- ①生徒と教員の協働作業。協働作業に至る過程、協働作業そのもの。生徒と教員は互いに学び合う存在。
- ②ふだん発表することのあまりない生徒が、日本語ではなく韓国語で発表という機会を通して自分なりの充実感を得られたこと。
- ③充実感にとどまらず今後の学習意欲を促進したこと。
- ④生徒自身が自分の進路について改めて考え直すことになったこと。

課題

- ①本授業は、モチベーションの高い生徒であったので成り立った。そうでなければ難しい。
- ②「進路を語る」のような主題は構成メンバーをみて成り立つかどうかを判断しなければならない。強要することはできない。
- ③日本語によるやりとりであった。韓国語でやりとりできる工夫が必要。
- ④使用可能な既習事項を全員に対して一覧にして予め提示しておけばよかった。
- ⑤アイコンタクト、前に立っての態度等も指導したい。
- ⑥単元指導計画だけでなく、年間指導計画も再構成したい。

まとめ...担当者として何をねらいとしているか？

- 一 生徒が主体的に取り組める授業
- 二 生徒自らが考えることができる授業
- 三 生徒自ら学ぶ意欲を持てる授業

外国語地域拠点事業があるなしに関わりなく、このような発表授業を構想してきた。

これまで行なってきた筆者の韓国語授業は、対話文を中心に構成されている各单元ごとに対話練習、文型置き換え練習、説明等で終わっていた。時折、韓国の歌を紹介したり、「話してみよう韓国語」に参加させたり、書藝の授業を入れたりしたが、どちらかといえばスポット的な挿入にとどまり、生徒が自発的、意欲的に取り組めるような仕掛けをしてこなかった。

これらのことを反省し、生徒が今回の「進路を語る」のように自ら考え、教師とともに授業づくりをすることを通して、やればできるという自信や自己肯定感をもてるのではないかと考えるに至った。

生徒が英語学習では躓いたかもしれないが、韓国語や韓国/朝鮮の文化に親しみ、広く目を外に向けてほしい。できれば日本語とも比較対照しながら韓国語を見、そのことによって日本語をとらえなおしてほしい。

これが、この授業にあたった筆者の思いである。

始める前ははたしてどこまで生徒がついてきてくれるか、全く筆者任せになるのではないかという危惧も持ったが、それらは外れ、生徒はよく調べ、よく質問してくれたと総括する。

今後、どのような進路に進むにしろ、韓国語をさまざまに工夫しながら学習したということを糧として持ってほしいと願っている。

もちろん筆者が担当するすべての授業で、同じような取り組みが可能だとは考えない。

実は、現在担当する「韓国朝鮮語Ⅰ」の授業では声を発しようとする生徒が多く、筆者は苦慮している。このような授業でも、下記のような授業づくりは依然として課題が残っている。また、発音の指導を韓国語母語話者ではなく、筆者が行なったことも大きな限界である。

- 一 生徒が主体的に取り組める授業
- 二 生徒自らが考えることができる授業
- 三 生徒自ら学ぶ意欲を持てる授業

筆者自身、今後さらに授業改善をしていきたい。

경청해 주셔서 감사합니다.

研究開発課題

* 新学習指導要領を踏まえた下記2項目に留意すると5言語共通の方針のもとに単元指導案を作成し、実践する。
 A: 育成すべき資質・能力の3つの柱(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう態度」)
 B: 指導目標の5領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」)

取組内容

取組①
 単元目標としてパフォーマンス課題(会話のロールプレイ)を設定し、これを実現させるために授業の逆向き設計を行う。

取組②
 単元を通じて養われるべき力を、資質・能力の3つの柱別の柱別の目標として明確化する。

取組③
 単元を通じて、5領域の力が総合的に養われるように授業をデザインする。

成果①
 「お店で服を買おう」の単元でパフォーマンス課題を設定した結果、学んだことを活用する場面が明確であったため生徒が、自分自身にとって意味のあるテーマととらえ、意欲的に取り組んだ。
 <教師の観察>
 * 実現目標を明確にすることで、生徒が授業内活動から、どのような力を身に付けることができるか意識させられた。

成果②
 目標を明確化することにより、会話で聞き手を想定して話したり、相手の会話の内容の目的を意識して聞き取ったりすることが重要であるということが確認でき、その単元の目標を超えた「学び方」を意識させた。
 <生徒の感想>
 * 教科書の文章を機械的に繰り返すのではなく、相手のことを考えることが大切と感じた。

成果③
 授業ではテキストを「読む」ことや、モデル文を「書く」ことも行ったが、活動を通じて、会話のロールプレイにのっとりながら、「話す(やり取り)」力と、必要な情報を「聞く」力を意識させることができた。
 <生徒の感想>
 * ロールプレイの内容がしつかり頭に入っていれば、単語が多少変わっても内容を想像できた。

研究の成果と課題

「お店で服を買おう」ことを単元目標としてパフォーマンス課題(会話のロールプレイ)を設定して授業を逆向き設計することにより、生徒が、自分自身にとって意味のあるテーマであると捉え、意欲的に取り組むことができた。3能力別に目標を明確化することにより、買い物物の時に利用できるような会話ロールプレイを行い、学習したことがどのようなことに活用できるのか意識でき、今後の学習意欲の向上につなげることができた。Can-doリストを活用しながらの効果的な指導方法や年間指導計画については、次年度以降の課題としたい。また、活動を通じて「話す(やりとり)」力と「聞く」力を意識させることができたが、授業内では「読む」「書く」などの活動行っており、それらの活動を授業内でどのように位置づけられ、育成につなげられるのかどうかについては検討が不十分であった。
 今回は、学習1年目の生徒が対象であった。同じ活動を2年目以降の学習者に実施する場合は、同じ活動でありながら語彙や会話の質を向上させるために、どのような授業内活動と評価を行うことが適切であるのか、時期を考えながらどんな単元で設置できるか今後検討していきたい。(太字は課題)

中国語授業指導案

単元指導案

■単元案の概要

作成者： 潮田 央

1 単元名

お店で服を買おう

2 実施するクラスの状況等

言語／科目名	中国語／中国語入門	実施時期	9月～10月
学習年次	初年次	言語レベル	A1
クラスの状況	25人(2年、3年共修)	単元の授業時数(50分×3回など)	55分×4回
単位数	2単位	使用教材	教科書、衣服、カード、プリント

3 単元の目標

この単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動(パフォーマンス課題)
 衣料品店で、自分が欲しい種類の服のことを伝え、買うことができる。

個別の知識や技能 (何を理解しているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)	文化や社会への気づきのポイント (どんな気づきをどの場面で起こせるか)
育成すべき資質・能力の三つの柱 ①語彙・表現の知識 ・お金の種類(塊, 毛, 分) ・色の種類 ・服や小物の種類 ・「もう(一度)～する」 ・値段や金額について尋ねたり、値段について交渉する表現	①自分の欲しいものの情報を伝えたり、聞き取ったりする力 ②欲しいものを出してもらっためりたりしたり、金額を交渉したりする力	①自分の欲しいものの情報を的確に伝え、相手の情報を聞き取ろうとする態度 ②実際に買い物の場面で使おうとする態度	①名詞と量詞の関係 ②数字表現の違い ③お金の種類の違い

4 単元の評価方法

形成的評価	総括的評価
○行動の観察 ○行動の観察(会話練習) ○行動の観察(色の種類を利用した活動) ○記述の点検(買い物物のやりとりの流れ) ○記述の確認(紙媒体小テストの内容)	○行動の分析(ロールプレイの内容) ○記述の分析(全体の振り返り)

■単元の指導計画 ※3次の④が1時間に及ぶ可能性があるため、「5時間」の時間数としました。

次	ねらい(授業をとおして、生徒がどう変容しているか)	学習内容	学習活動	言語の5つの領域の目標				評価基準	評価方法
				聞く	読む	話す(やりとり)	話す(発表)		
1	買い物で使用する語彙を理解する。	買い物に関するモデルダイアログ前半を理解し、表現する。	①モデルダイアログ前半を聞き、内容を理解する(個人) ②モデルダイアログ前半のロールプレイ練習をする(ペア) ③モデルダイアログ前半のロールプレイを発表する(グループ) ④語彙・表現を学習する(個人)	○	○	○	○	モデルダイアログの内容を理解している。 モデルダイアログ通りに話す事ができる。 モデルダイアログ通りに話す事ができる。 モデルダイアログに組み入れる単語を理解している。 衣服、色、サイズの種類を表現することができる。 モデルダイアログを使い自分の欲しい情報を伝えることができる。	行動の観察 行動の観察(会話練習) 行動の観察(会話練習) 記述の確認(紙媒体小テストの内容) 行動の観察(色の種類を利用した活動)
2	衣服・小物、色、サイズについて、自分の欲しいものを言うことができる。	ダイアログ前半に基づいて、自分の欲しい情報を伝えたり、聞き取ったりすることができる。	①衣服・小物、色、サイズを覚えるための活動をする(ペア) ②モデルダイアログ前半の衣服、色、サイズを置き換えロールプレイの練習をする(ペア) ③モデルダイアログ後半を聞き、内容を理解する(個人)	○	○	○	○	衣服、色、サイズの種類を表現することができる。 モデルダイアログを使い自分の欲しい情報を伝えることができる。 モデルダイアログの内容を理解している。	行動の観察(色の種類を利用した活動) 行動の観察(会話練習) 行動の観察
3	欲しいものに関わる金額や数字を的確に聞き取り、明確に伝えることができる。	ダイアログ後半に基づいて、自分の欲しい情報を伝えたり、聞き取ったりすることができる。	①モデルダイアログ後半を聞き、内容を理解する(個人) ②モデルダイアログ後半のロールプレイ練習をする(ペア) ③金額を伝えたり、聞き取ったりするための活動をする(グループ) ④モデルダイアログ全体を使って、ロールプレイ練習をする(ペア)	○	○	○	○	スムーズに発話しようとしているか モデルダイアログ通りに話す事ができる。 金額を表現することができる。 モデルダイアログを使って話す事ができる。 金額を表現することができる。	行動の観察(練習の様子) 行動の観察(会話練習) 行動の観察(金額の種類を利用した活動) 行動の観察(会話練習)
4	単元学習内容を確認し、全体の振り返りを行う。	衣料品店で、ダイアログを利用しながら、自分が欲しい種類の服のことを伝え、買うことができる。	①モデルダイアログ全体を使って発表する(グループ) ②グループ内で相互評価を行う(個人) ③発表をクラス全体で共有する(クラス) ④単元で使った表現・語彙を確認し、全体の振り返りを行う(個人)	○	○	○	○	ロールプレイを聞き取ることができる。 ロールプレイを聞き取ることができる。 ロールプレイを聞き取ることができる。 語彙・表現を理解できている。全体を振り返り、学習内容を自分の中で位置づけている。	記述の点検(買い物やりの流れ) 記述の点検(買い物やりの流れ) 記述の分析(ワークシート、全体の振り返り)

目標設定＝評価のためのルーブリック

頑張りポイント	目標以上達成	目標達成	もう少し頑張ろう	努力が必要
聞く力	自分の欲しいものの情報を的確に聞き取ることができる。	自分の欲しいものの情報を聞き取ることができる。	衣服に関する情報を何か聞き取ることができる。	衣服に関する情報を何も聞き取ることができない。
話す力	自分の欲しいものの情報を明確に伝えることができる。	自分の欲しいものの情報を伝えることができる。	衣服に関する情報を何か伝えることができる。	衣服に関する情報を何も伝えることができない。
やりとりする力	欲しいものをすぐ手に入れたり、自分に有利に交渉したりすることができる。	欲しいものを出してもらうためにやりとりしたり、金額を交渉したりすることができる。	衣服や金額に関するやりとりをすることができる。	衣服や金額に関するやりとりができない。
表現の種類	単元で学んだ表現方法を的確に使うことができる。	単元で学んだ表現方法を使うことができる。	単元で学んだ表現の一部を使うことができる。	単元で学んだ表現方法を使うことができない。

モデルダイアローグ

パート	話し手	日本語	中国語
前半	中国人の店員	こんにちは。何かお求めですか？	你好。你要什么？
	日本の高校生	その財布を見せてください。	请给我看看那的钱包。
	中国人の店員	大きい物と小さい物どちらが良いですか？	你要大的还是要小的？
	日本の高校生	小さい物が欲しいです。赤い財布はありますか？	我要小的。有红的吗？
	中国人の店員	ありません。黄色い財布はいかがですか？	没有。黄的怎么样？
	日本の高校生	とても良いですね。これが欲しいです、おいくらですか？	真好看！我要这个，多少钱？
	中国人の店員	200 元です。	200 块。
	日本の高校生	高すぎます。安くしてください。	太贵了！便宜点儿，好吗？
	中国人の店員	180 元ではいかがですか？	180 块怎么样？
	日本の高校生	もっと安くしてください。150 元でいいですよ？	再便宜点儿吧。150 块，好不好？
後半	中国人の店員	ダメです。	不行。
	日本の高校生	二つ買って 340 元でいかがですか？	买两个 340 块怎么样？
	中国人の店員	うーん、わかりました。	嗯，好吧。

単語

衣服の種類		小物の種類		色の種類		サイズの種類		お金の種類	
セーター	毛衣	財布	钱包	オレンジ	橙色	大きい(L)	大(号)	分	分
Tシャツ	T 恤	腕時計	手表	紫	紫色	中ぐらい(M)	中(号)	角	角/毛
ポロシャツ	Polo 衫	傘	傘	茶色	棕色	小さい(S)	小(号)	元	元/块
シャツ	衬衫	ベルト	皮带	白	白色			1元(札)	一元
ズボン	裤子	帽子	帽子	緑	绿色			2元(札)	二元
ショートパンツ	短裤	鞆	书包	青	蓝色			5元(札)	五元
ジーンズ	牛仔褲			赤	红色			10元(札)	十元
スカート	裙子			黄色	黄色			20元(札)	二十元
				黒	黑色			50元(札)	五十元
				灰色	灰色			100元(札)	一百元
				ピンク	粉色				
				金色	金色				
				銀色	银色				

活動紹介

1

〇〇蹲

- ① 「〇〇蹲、〇〇蹲、〇〇蹲完、〇〇蹲」というかけ声を勉強する。
- ② 「〇〇」には今単元で学ぶ「衣服、小物、色」の種類をそれぞれ入れる。
- ③ グループになって、「〇〇」には自分の担当、「●●」には他の人の担当のものを入れていく。
- ④ グループごとに競い合い、それぞれの種類の単語を覚える。

2

金額のゲーム

- ① カードに「100元」「250元」「300元」…、など任意の3桁以上の金額を書く。
- ② 別の種類のカードに「衣服」「小物」の種類を書く。
- ③ ペアになって、お互い相手に金額のカードと、「衣服、小物」のカードをそれぞれ引かせ、引いた人は「何がいくらか」答える。
- ④ 3人1組になり、ペアが引いたカードの内容を聞き取り、日本語で答える。

総合高校における中国語講座の実態 ― 次期指導要領改訂との関わりの中で

関東支部 神奈川県立藤沢総合高等学校 教諭 潮田 央

1 藤沢総合高校と中国語の授業



1) 藤沢総合高校について

○藤沢総合高校とは

- ・平成16年に藤沢北高校と長後高校による再編統合によって開校。
- ・生徒数 827人（男子 288人 女子 539人）
- ・1学年（年次） 1クラス 35人 8クラス規模
- ・進路状況 4年制大学進学 26% 短期大学進学 12% 専修各種学校 44%
就職 9% 進学準備 4% その他 5%
(2016年3月卒業生)

○総合学科

- ・藤沢総合高校は単位制総合学科。二期制
- ・平成29年度入学者からセメスター制を導入
- ・現在は2年次生から進路や興味によって多くの選択科目を履修する
- ・1時間 55分 1日6コマ 4時間目までは全員空き時間なし
- ・英語以外の外国語として中国語とスペイン語の授業を開設

2) 中国語の授業

○中国語入門 2単位（以下「入門」）

- ・専任1人 ネイティブ1人 TT
- ・1クラス 25人前後 3クラス展開
- ・教科書 『標準高校中国語』（第3版）白帝社

○中国語発展 2単位（以下「発展」）

- ・専任1人 ネイティブ1人 TT
- ・1クラス 15人前後 1クラス展開
- ・教科書 『高校生からの中国語』白帝社

※両授業ともにサブテキストとして「中国語で交流しよう！」（神奈川県教育委員会）を使用

2 授業実践

1) 授業の形態

- 教科書を使いながら、発音や会話の練習、シャドーイング、暗唱や、日本語訳、中国語訳、文法の講義等を行う。学力定着の確認のために、単語テストやレッスンテストを定期的に行っているが、定期試験（中間考査、期末考査）には参加していない。ただ、こうした通常の授業の学習活動だけでは、本校の生徒は学ぶ意義や学ぶ楽しさを実感しにくく学習への意欲が低調となる傾向が強かった。そこで、生徒がお互いに学べる場を用意する、掲示物を作成する、授業として積極的に行事に参加する、外部との連携を進める、といった活動を行って、興味・関心を高めるとともに、学習の成果を問う場としても活用している。

2) 協働学習

○生徒同士の交流

- ・ペアワークが授業の中心 発音 会話 訳 作業
- ・グループワークはペア×2
- ・席順は途中から授業者が作為的に変更

○アイスブレイク、コミュニケーション活動等の活用

- ・「相手の誕生日を聞いてバースデーラインを作ろう (数字の学習)」(表1)
- ・「会話をそろえよう (内容の復習)」(表2)
- ・「名刺交換をしよう」(自己紹介)(表3)

・相手の誕生日を聞いてバースデーラインを作ろう (表1)

- ① 数字 (1~31) の言い方を学習する
- ② 月日、誕生日の言い方、相手への聞き方を学習する
- ③ 任意の月日を決め、その日にちを先頭にして、クラスで順に並んでいく。その際、手振りや日本語での会話を禁止し、中国語だけで会話する
- ④ ラインまたはサークルができたなら順に自分の誕生日を発表する
- ⑤ 自分の誕生日で行うほか、練習のため任意の日にちを自分で決めて行うことも

・会話をそろえよう (表2)

- ① 教科書の会話文を学習する
- ② ペアで教科書の会話文の単語を変えたり、内容を加えたりした文章を作る。簡単な文章の場合は、単語などで切ることもある
- ③ 作った文章を2ペアで交換し、意味が通じるように並び替える
- ④ ペアで答え合わせを行う
- ⑤ 授業者が作った問題を並び替えることもある

・名刺交換をしよう (表3)

- ① 名刺に載せる情報を決める (氏名を簡体字で、ピンインを併記、所属 etc)
- ② 名刺に記入し、飾り付けをする
- ③ その時々レベルに応じて、どのような会話をするか考える
- ④ ペアまたは全体で練習を行う
- ⑤ クラス内で練習した会話表現を使って、名刺交換を行う

○協働作業

- ・「キャラクターを紹介しよう（他人紹介）」
- ・「MAPS 作り（中国の都市や地域を図で説明する）」（表 4）
- ・「中国語を紹介しよう（あいさつ、時間、行事、買い物、食事、唐詩、スポーツ等）」（表 5）
- ・「図書館の利用案内を作ろう（中国語による標示物）」（表 6）

○発展生徒による指導

- ・発展履修生徒の学力向上と、身近な生徒から学ぶ環境作りを目的に、入門の授業に発展の履修者を参加させ、会話の見本や発音の指導を一緒に行う
- ・同じ自己紹介であっても、学習時期によって表現が豊かになることを実感できる

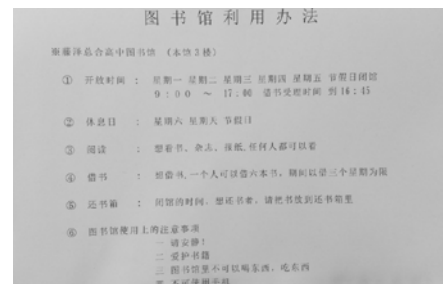
表 4



表 5



表 6



3 総合学科としての活動

1) 総合学科の行事

○文化祭

- ・協働学習で作成した成果物を展示（表 7）

○課題研究発表会・学習成果発表会

- ・授業内活動を紹介（絵本の中国語訳、中国の歌の紹介）（表 8）



表 7

・絵本を中国語で紹介しよう（表 8）

- ① 紹介する絵本を決める（今回は「はらぺこあおむし」）
- ② 絵本の一部また全文を翻訳する（今回は一部分。多くは翻訳書を使用）
- ③ パートごとに授業内で担当箇所を振り分け、発音練習する
- ④ 朗読を撮影、または録音する
- ⑤ ④と同時並行で授業者のテンプレートに従って、担当パートごとに、パワーポイントでスライドを作成（スライドには日本語も併記）
- ⑥ 音声ファイルを各スライドに組み込む

2) 外部への発信

- 県立高校学校開放事業の一つである本校の公開講座にアシスタントとして参加
- いちょう団地ボランティア

3) スペイン語との連携 (表 9)

- 目標設定を近づける
 - A0 入試や推薦入試で活用できるよう、4カ国語で自己紹介できるようにする
- 行事への合同参加
- 授業内活動の共有、一部共通化

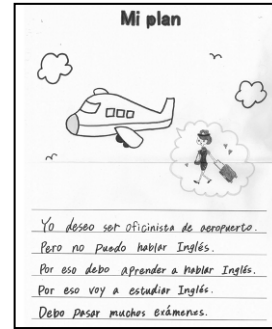


表 9

4 次期指導要領改訂との関わりの中で

- 1) 文部科学省編「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(平成 22 年 5 月)
第 1 部外国語編 第 2 章外国語科の各科目 第 8 節その他の外国に関する科目 より

その他の外国語に関する科目については(一部省略)英語の各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする。

高等学校において英語以外の外国語を初めて履修させる場合は、基本的な言語材料を扱い、生徒の習熟の程度に応じた言語活動を行うよう、適切な配慮が必要である。

- 2) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(2016 年 12 月 21 日)

- 現行の 4 技能 → 聞くこと・読むこと・話すこと・書くこと
- 次期改訂の 5 領域 → 聞くこと・読むこと・話すこと(やり取り)・話すこと(発表)書くこと
- 言語活動の充実
 - ・コミュニケーションの目的・場面・状況等の設定
 - ・目的に応じて発信する内容の性質を理解し、見通しを立てる
 - ・目的達成のための方法 「主体的、対話的で深い学び」
 - ・学習のまとめと振り返りを行う

【参考文献】

- ・田尻悟郎著『(英語)授業改革論』(教育出版、二〇〇九年)
- ・JAKEHS 教室活動編集チーム著『すぐ使える韓国語アクティビティ 45』(白帝社、二〇〇九年)
- ・胡玉華著『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』(東方書店、二〇〇九年)
- ・『外国語学習のめやす』—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言—(国際文化フォーラム、二〇一二年)
- ・森住衛・古石篤子・他著『外国語教育は英語だけで良いのか』(くろしお出版、二〇一六年)内「第 2 の外国語」学習指導要領(案) 藤井達也著「中国語」
- ・文部科学省編「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(平成 22 年 5 月)
- ・文部科学省編「中学校学習指導要領解説外国語編」(平成 20 年 9 月)
- ・興水優著『中国語の教え方・学び方—中国語教育法概説』(日本大学文理学部、2005)
- ・青木将幸著『リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト 50』(ほんの森出版、二〇一三年)

研究開発課題

* 新学習指導要領を踏まえた下記2項目に留意すると5言語共通の方針のもとに単元指導案を作成し、実践する。
 A: 育成すべき資質・能力の3つの柱(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう態度」)
 B: 指導目標の5領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」)

取組内容

取組①

単元目標としてプレゼン発表を設定し、論理的にそれを行えるよう授業の逆向き設計を行う。

取組②-1

単元を通じて養われるべき力を、資質・能力の3つの柱別の目標として明確化する。

取組②-2

既習言語である英語と対比することにより、新規学習言語の能力の底上げを図る。

取組③

単元を通じて、5領域の力が総合的に養われるように授業をデザインする。

成果①

「夢を語る」の単元で多く発表の機会を設けた結果、生徒が自分自身にとって意味のあるテーマととらえ、意欲的に取り組んだ。また、その原稿をさらに発展させ入試の自己PRに活用する生徒が多かった。

〈教師の観察〉

* 発表を前提としているため原稿の作成・修正等に、熱心に取り組む様子が見られた。

成果②

英語とのとスペイン語との異同を意識しながら外国語を効果的に学ぼうとする態度が身につくとともに、聴衆を意識した論理的な文章を書くようになる。また、進路意識も深化し、学習の成果をAO入試等に活用して進路実現をする生徒が多かった。

〈生徒の感想〉

* 英文法との比較により英語もスペイン語も理解しやすかった。

* 英語、スペイン語の単語の語源を比較しながら理解することができた。

成果③

原稿作成により「書く」力、プレゼン発表により「話す(発表)」力、および他者の発表を「聞く」力を一定程度養うことができた。

〈生徒の感想〉

* 自分たちの身近な内容だったので興味深く聞くことができた。

研究の成果と課題

「夢を語る」を単元としてプレゼン発表を設定して授業を逆向き設計することにより、生徒が、自分自身にとって意味のあるテーマととらえ、意欲的に取り組むことができた。また、英語とのとスペイン語との異同を意識しながら外国語を効果的に学ぼうとする態度が身につくとともに、聴衆を意識した論理的な文章を書けるようになった。また、進路意識も深化し、学習の成果をAO入試等に活用して進路実現をする生徒が多かった。原稿作成により「書く」力、プレゼン発表により「話す(発表)」力、および他者の発表を「聞く」力を一定養うことができたが、発表に関する質疑は日本語に依存しがちであったため、「話す(やり取り)」力の育成については、不十分であった。スペイン語で質問する難形を生徒たちに提示するべきであったと思われる。今後も、パフォーミング課題を目標とする単元指導案を作成し実践を試みたい。さらに、複数の単元での実施し、その成果を年間授業計画にどのように反映できるのか、今後検討していきたい。(太字は課題)

単元指導案
■単元案の概要

作成者： 日比野規生

1 単元名
自分の夢を語る

2 実施するクラスの状況等	実施時期	11月中旬
言語/科目名	スペイン語入門	入門[A1(CEFR LV)]
学習年次	2年・3年次共修	
クラスの状況	クラス人数30人	55分×6
単位数	2単位	Gramañol (朝日出版)

3 単元の目標

この単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動(パフォーマンス課題)

自分が就きたい職業について、理由とそのために必要な準備を含めて話すことができる【話す能力】

育成すべき資質・能力の三つの柱		
個別の知識や技能(何を理解しているか、何ができるか) CAN-DOリスト	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
<p>参照せず</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ pero, por esoなどを使って論理的な文章を組み立てられるようになる。 ○ 動詞の原形(不定詞)を正しく理解し、言い表せるようになる。 ○ desear + 不定詞やtener que + 不定詞の構文を使って「～したい」「～しなければならぬ」などの内容を表現できるようになる <p>(この単元で参照する既習事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 直説法現在時制の規則動詞の意味と活用形 ○ 職業についての語彙 ○ 曜日や午前、午後など時に関する語彙 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語や日本語の情報を正しく理解し、自分がしたいこと、しなければならぬことをスペイン語で分かりやすく書き、話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スペイン語を通してその言語や背景にある文化を尊重しようとしている。 ○ 自分の思っていることを分かりやすく、説得力のあるスペイン語で語ろうとする。 ○ スペイン語学習の際に既習外国語である英語学習での経験を参照するとともに、スペイン語学習の成果を英語学習にフィードバックしようとする態度。

(文化と社会への気づきのポイント)
○スペイン語の語源を理解すると共に、他の言語と比較しながら文化理解を深める。

4 単元の評価方法

形成的評価	総括的評価
<p>自分のしたいことやそれに向かってしなければならぬことをスペイン語で語れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表に向けて正しく語法を用い、適切な表現で文章を書ける。(記述の確認) ・自分の思っていることを表現豊かに発表できる。(行動の観察)(発表の評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した文章を説得力のある表現で発表できる。 ・他の人の夢を聞き、そのことについて語り合い、コミュニケーションを図ることができるようになる。

■単元の指導計画

次	ねらい (授業をとおして、 生徒がどう変容しているか)	学習内容	学習活動	言語の5つの領域の目標				評価標準	評価方法
				聞く	読む	話す (やりとり)	話す (発表)		
1	desear/querer(～したい)を使って自分が今、したいこと、したくないことをスペイン語で言い表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な動詞の意味と原形(不定詞)の用法を確認する desear/querer(～したい)の用法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の動詞が記載されたフラッシュカードを見てスペイン語で答える。 英語の名詞と絵が記載されたフラッシュカードを見て、それらから連想されるスペイン語の動詞を答える。 Apple(リンゴ) →comprar(買う)、comer(食べる) viajar(旅行する)、escuchar(聴く)、comer(食べる)、beber(飲む)など日常生活に関する英語文をスペイン語で表現する。 I want to eat Sushi. → Yo deseo comer Shushi. I want to drink some water. → Yo quiero beber agua. 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理解できているか 適切に発話しているか 適切に発話しているか	反応の観察 反応の観察 反応の確認
2	desear(～したい)を使って自分が将来やりたいもの、したいことをスペイン語で言い表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 職業を表す語彙を確認する 職業の希望や将来の夢をスペイン語で語る 	<ul style="list-style-type: none"> 職業を表すスペイン語を知っているだけ挙げる。 英語で書かれた職業名のカードを見てスペイン語で答える。 (例) singer→cantante(歌手) スペイン語圏の国々の高校生がなりたいたい職業のランキングを紹介し、その文化的背景を学ぶ。 職業の希望についてスペイン語で語る。 例 Yo deseo ser ～.(になりたい) 将来の夢をスペイン語で語る。 例 Deseo viajar por España.(スペインを旅行したい) 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理解できているか スムーズに発話できたか スムーズに発話できたか	反応の観察 発表の分析 発表の分析
3	tener que(～しなければならぬ)を使って自分が今、しなければならぬことをスペイン語で言い表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> tener que(～しなければならぬ)の用法を学ぶ 曜日ごとに英語で記載された予定表をもとに、自分が一週間でしなければならぬことをスペイン語で語る。 	<ul style="list-style-type: none"> スペイン語の曜日の表現を確認する。 英語で記載された予定表をスペイン語で言う。 例 Wednesday/party → Tengo una fiesta el miércoles(水曜日にパーティーがあります) Friday/exam → Hay un examen el viernes..(金曜日に試験があります) 予定表を見てしなければならぬことをスペイン語で表現する。 例 Tengo que comprar bebidas para la fiesta.(パーティーのために飲み物を買わなければなりません) Tengo que estudiar mucho esta semana.(今週たくさん勉強しなければなりません) 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理解できているか 正しく表現できたか	反応の観察 発表の分析 記述、発話の確認
4	論理的な表現を使った原稿を作り発表できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> Por eso(だから)やy(そして)を使って文章をつなげて表現する。 自分がその夢にむかってしなければならぬことを書く。 発表文を完成させる 発表の練習をする 	<ul style="list-style-type: none"> Por esoやyの意味と用法を確認する。 予定表を見ながら、その日の行事にとそのためにすべきと思われることを接続詞を使ってつなげて表現する。 2次の授業で書いた自分の夢に向かってしなければならぬことをTengo que ～を使って書いてみる。 Deseo ser profesor de inglés porque es un trabajo muy interesante.Por eso tengo que estudiar mucho. (私は英語の教師になりたいと思っています。なぜならとてもおもしろい職業だからです。だから、私はたくさん勉強しなければなりません) 2人ペアになり、順番に自分の夢をスペイン語で表現してみよう。 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理解できているか	反応の観察 発表の確認
5	職業の希望(自分の夢)を語る	<ul style="list-style-type: none"> 全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4次で完成させた文の前後に、¡Hola! Me llamo Ken Tanaka.(私の名前は田中健です)/Muchas gracias por su atención.(ご清聴ありがとうございます)をつけて、順番に壇上で発表する。 その際、発表を聞いている生徒は所定のプリントにメモをとる。 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	聴いている人に伝えようとしているか スムーズに発話し、聴いている人に夢を伝えようとして表現しているか。 聞いている生徒は発表の内容を正しく聞き取り用紙に正しく記載しているか	行動の観察 発表の分析 行動の確認・記述の分析

授業概要

「スペイン語入門」 2単位・3展開・各35人規模
総数 87人 2年生33人
3年生54人

授業選択の動機

- ①語学に関する興味関心 (78%)
- ②文化・風習などに関する興味関心 (50%)
- ③進路実現への必要性 (92%)

藤沢総合高等学校

スペイン語入門 学習单元案 『自分の夢を語る』

藤沢総合高等学校 教諭 日比野規生

取り組み①

単元目標にプレゼン発表を設定。
論理的にそれを行えるよう授業の逆向き設計を行う。

- 『～になりたい』
- 『理由は～だから』
- 『～しなければならない』

語法を正しく理解し表現できるようにする

取り組み②（英語を多く使いながら）

養われるべき力を3つの柱別の目標として明確化

- 知識・技能→ 語彙・語法
(何を理解し、できるのか)
- 思考・判断・表現→ 情報入手、分析
(どう使うか)
- 学びに向かう力→ 異文化理解、既習外国語との関わり (世界との関わり)

取り組み③

5領域の力を総合的に養えるようデザイン

- 聞く → プレゼンテーションを聞く
- 読む → 練習段階、語法理解段階
- 話す → ペアワーク、質疑等
- 発表 → プレゼンテーション
- 書く → 台本作成など

単元の指導計画（1次・2次）

- ・ 基本的な動詞の復習
英語→スペイン語でアウトプット
- ・ 『したい』『したくない』を述べる
desear/quererを使って表現する。
- ・ 職業名・文化的職業観
スペイン語圏の高校生のなりたい職業ランキング
- ・ なりたい職業・したいことを表現する



QUE QUIERES SER CUANDO SEAS ADULTO?????より

単元の指導計画（3次・4次）

- ①論理的文章のための語法理解
『理由』『すべきこと』を表すための表現

語法理解と共に進路意識を高める

- ②台本作り
文法上誤りがない文
聞いていて興味を持てる文
- ③ペアワークによる練習

単元の指導計画（5次・6次）

- ・発表する生徒 自分の言葉として、正しく発話することを目指す。
- ・聞いている生徒 発表を聞き、メモを取り他の生徒の夢や決意を尊重する。
- ・発表に対する質問/答え →フィードバック

成果

- ① 題材が身近なもの
→ 意味のあるテーマととらえた
- ② 既習言語との比較
→ 学習効果の向上
- ③ 発表までの過程で5領域をバランスよく育成

さらに発表の成果をさらに発展させ、AO入試などに多くの生徒が活用した



完成した文章を絵と共に校内に掲示し、多くの生徒に見てもらう。

今後の課題

- ①発表時の質疑が全て日本語
→ 『話す』（スペイン語でのやりとり）
に活用できず
- ②複数のプレゼンテーションをどのように
年間指導計画組み込むか

まとめ

研究開発課題

* 新学習指導要領を踏まえた下記2項目に留意すると5言語共通の方針のもとに単元指導案を作成し、実践する。
 A: 育成すべき資質・能力の3つの柱(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう態度」)
 B: 指導目標の5領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」)

取組内容

取組①
 単元目標としてパフォーマンス課題(口頭発表と質疑応答)を設定し、これを実現させるために授業の逆向き設計を行う。

取組②
 単元を通じて養われるべき力を、資質・能力の3つの柱別の柱別の目標として明確化する。

取組③
 単元を通じて、5領域の力が総合的に養われるように授業をデザインする。

成果①
 「自分の学校を紹介する」の単元でパフォーマンス課題を設定した結果、生徒が、自分自身にとって意味のあるテーマとらえ、意欲的に取り組んだ。
 <教師の観察>
 * 従前に比べて、自ら選んだ発表内容に責任をもち、生徒同士が協力して原稿の作成・修正等に熱心に取り組む様子が見られた。

成果②
 目標を明確化することにより、自分のドイツ語力を確認しつつ語句・表現を学んで身に付けた「自分のことば」としてのドイツ語を活用して、聴衆に配慮した発表・質疑応答を行い、学習意欲の向上につながることができた。
 <教師の観察>
 * 何度も発表練習を行うことで、どのようなドイツ語で、何を伝えたいのか、聴衆に配慮した判断を行うことができていた。

成果③
 必要な語句・表現を集めるためにモデルとなるテキストを「読む」力、原稿作成により「書く」力、口頭発表により「話す(発表)」力、および質疑応答により「聞く」「話す(やり取り)」力を養うことができた。
 <教師の観察>
 * それぞれの生徒により得意・不得意があるなか、グループワークでお互いを補い、助け合う様子が見られた。

研究の成果と課題

「自分の学校を紹介する」の単元目標としてパフォーマンス課題(口頭発表と質疑応答)を設定して授業を逆向き設計することにより、生徒が、自分自身にとって意味のあるテーマとらえ、意欲的に取り組むことができた。3能力別に目標を明確化することにより、「自分のことば」としてのドイツ語を活用して、聴衆に配慮した発表ならびに質疑応答を行い、学習意欲の向上につながることができた。また、必要な語句・表現を集めるためにモデルとなるテキストを「読む」力、原稿作成により「書く」力、口頭発表により「話す(発表)」力、および質疑応答により「聞く」「話す(やり取り)」力を養うことができた。一方、今回はパフォーマンス課題を設定し、試験的に実施することができたが、これを評価するところまでは達成できなかった。Can-do リストを活用しつつ、ルーブリックによる評価(形成的評価ならびに総括的評価)を行うことで、作業のそれぞれの段階で学習者が目標を確認し、教員が適宜適切な指導を行う、という点は次年度以降の課題としたい。

■単元案の概要

1 単元名

慶應義塾高等学校を紹介し質疑応答する

2 実施するクラスの状況等

言語／科目名	ドイツ語／ドイツ語II	実施時期	9～10月
学習年次	2年次	言語レベル	A2
クラスの状況	約15人（第3学年）	単元の授業時数（50分×3回など）	50分×10回＋課外活動（1時間程度）
単位数	3単位	使用教材	自主教材

3 単元の目標

この単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動

慶應義塾大学に所属する留学生を対象とした、慶應義塾高等学校についての紹介において、聴衆の興味を引くような内容の紹介文をドイツ語で書き、聴衆が関心をもちつつ理解できるように口頭にて紹介でき、聴衆との質疑応答ができるようになる			
(何を知っているか、何ができるか) 知識・技能	(知っていること・できることをどう使うか) 思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性 (どのように社会・世界と関わりよりよ い人生を送るか)	文化や社会への気づき (どんな気づきをどの場面で起こせるか)
- 語句、表現、文法 ・ 学校紹介に必要な語句や表現 ・ 接続詞、代名詞（テキスト構成） ・ 質問、回答の表現、聞き返しの表現 - 語句を正しく発音し、文の抑揚を適切につけて発話する能力 - テキストを理解し、そのテキストから自分がドイツ語で表現する際に必要となる語句や表現を集めるための、読む能力 - 説明すべきことが伝わり、内容に対する興味を呼び起こす紹介文を作成するための、書く能力 - 説明や質疑応答の際に、聴衆と適切にコミュニケーションをとるための、聞く能力 力および話す能力	- 学校紹介の際に何をどのように表現すれば相手に興味をもってもらえる内容となるかを思考・判断する能力 - 聴衆に理解しやすい紹介をするために、語句や表現、文法を適切に使用し、述べる順序を思考・判断する能力 - 紹介すべき内容を、聴衆への気配りをもちつつ、適切なドイツ語で分かりやすく表現する能力 - 質疑応答において、質問の意図を把握し、適切に答えられる能力	- 学校紹介の際に、聴衆が学校について理解し、学校に興味をもってもらえるよう努める態度 - 進んで質疑応答することにより、聴衆の考えを理解し、自分の意見を理解してもらおうとする態度	- 自分の紹介した内容が聴衆にどのように理解されるのか、また自分の予想していなかった点に聴衆が関心を向けたときの理解のあり方について、質疑応答を通して気づき、自分と聴衆のあいだの理解の仕方やものの見方の違いを受け入れる

4 単元の評価方法

形成的評価 行動の観察（生徒の反応、練習や発表の様子） 行動の確認（発表の内容） 行動の分析（学校紹介、質疑応答） 記述の点検（語句や表現をまとめた内容、質疑応答の内容） 記述の分析（紹介文の内容）	総括的評価 - 行動の分析（学校紹介、質疑応答） - 記述の分析（紹介文の内容）
--	--

■単元の指導計画

	ねらい(授業をとおして、生徒がどう学習しているか)	学習内容	学習活動	言語の5つの領域の目標			評価規準	評価方法
				聞く	話す(やりとり)	話す(発表)		
1	自分が何を紹介したいかを認識し、何をすべきかを主体的・積極的に決定することができる	どこで誰が何を紹介するか決定する	どこで紹介するかを決める(校舎、食堂、体育館、グラウンドなど) 上で決めた場所を、それぞれ誰が紹介するかグループ分けする それぞれのグループが何を紹介するか、日本語で内容を考える				- 主体的・積極的に決定しているか - よい紹介をしようという意欲をもって取り組んでいるか	行動の観察(生徒の反応)
2	紹介文の形式を理解し、必要な単語や表現を集めることにより、自分の紹介に向けて準備をすることができる	学校紹介文のモデルになるテキストの内容を理解し、使えるような単語や表現を集める、またそのテキストにないが必要となる単語や表現を補う	学校紹介文のモデルとなるテキストを読み、内容を理解する グループでお互いにテキストを読み上げ、その後全体にて発表することで、口頭での学校紹介の模擬練習をする テキストからそれぞれのグループの学校紹介において必要となる単語や表現を集める さらに必要な単語や表現を教科書などから補う(Assoziogrammの形にまとめるなど)	○	○	○	テキストの内容が理解できているか 単語を正しく発音し、文の抑揚を適切につけて発話できているか - 単語や表現が理解できているか - 必要な単語や表現がどのようなものであるか自ら判断できているか	行動の観察(生徒の反応) 行動の観察(練習・発表の様子) 記述の点検(まとめた内容) 記述の点検(まとめた内容)
3	これまでに学んだ単語や表現、テキストを構成する表現方法(代名詞、接続詞)を適切に使用して紹介文を書くことができる	集めた単語や表現、テキストを構成する表現方法(代名詞、接続詞)を用いてまとまりのある紹介文を作る	グループでそれぞれの学校紹介文を書く 既存の知識を確認したり、教科書の該当箇所を見ることで、代名詞と接続詞を復習する 代名詞や接続詞を用いて、テキスト構成を意識しつつ紹介文を書き直す グループでお互いの学校紹介文を読みあい、よりよい文章になるよう提案をしよう			○	これまでに学んだ単語や表現を適切に使用しているか 単語や表現が理解できているか テキスト構成の整った、まとまりのある紹介文が書けているか お互いの作文を尊重しつつ、適切な訂正案を提示できているか 提案を受け入れ、適切な文章が書けているか	行動の観察(生徒の反応) 記述の点検(紹介文の内容) 行動の観察(生徒の反応) 記述の点検(まとめた内容)
4	学校紹介文を適切に口頭発表できる	口頭発表の練習をする	グループで紹介文を口頭発表する練習をし、その後全体にて発表する お互いに批評をしよう、その後再度全体にて発表する	○		○	単語を正しく発音し、文の抑揚を適切につけて発話できているか - 適切な訂正案を提示できているか - それらの案を受け入れて改善することができているか	行動の確認(発表の内容) 行動の観察(生徒の反応) 行動の確認(発表の内容)
5	質疑応答に必要な単語や表現を身に付け、正しく発話することができる	質疑応答に必要な単語や表現を学び、質疑応答の内容を予想して文を作成し練習する	質疑応答に必要な単語や表現を学ぶ 学んだ単語や表現を用いて、様々なバリエーションで質疑応答の練習をする 学んだ単語や表現を用いて、予想される質疑応答のシミュレーションを作成する 質疑応答をグループで模擬練習し、その後全体にて発表する	○		○	単語や表現が理解できているか - 単語や表現が理解できているか - 発音ができているか これまでに学んだ単語や表現を適切につけて発話できているか - 聞き取るのに問題ない発音ができているか - 聴衆への気配りがあり、聴衆に関心を呼び起こしているか	行動の観察(生徒の反応) 行動の観察(生徒の反応) 記述の点検(質疑応答の内容) 行動の確認(発表の内容)
課外活動	聴衆が関心をもちつつ理解できる紹介が口頭でき、聴衆の考えを理解し自分の意見を伝えることができるような質疑応答をすることができる	聴衆を案内しつつそれぞれの場所での紹介を行う、その後質疑応答を行う	質疑応答を行う	○		○	質疑の要点を理解し、答えられているか	行動の分析(学校紹介) 行動の分析(質疑応答)

ポイント	目標以上達成	目標達成	もう少し頑張ろう	努力が必要
紹介文を書く	<ul style="list-style-type: none"> - 語句や表現が豊かに適切に用いられており、文意の読み取りにまったく問題ない - 文法上の間違いがない 	<ul style="list-style-type: none"> - 語句や表現が適切に用いられており、文意が読み取れる - 文法上の間違いが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> - 同じ語句や表現が繰り返しあらわれるが、文意は読み取れる - 文法上の間違いが少なからずある 	<ul style="list-style-type: none"> - 語句や表現が適切に用いられていないため、文意が読み取れないところがある - 文法上の間違いが多い
口頭で学校紹介をする	<ul style="list-style-type: none"> - 接続詞や代名詞を用いてテキストがきちん構成されている - 分かりやすく興味のもてる内容が過不足なくまとめられている 	<ul style="list-style-type: none"> - 接続詞や代名詞が用いられ、テキストを構成しようという努力が見られる - ひとつとおりの内容が分かりやすくまとめられている 	<ul style="list-style-type: none"> - 接続詞や代名詞といったテキストを構成する要素が少し用いられている - 説明し足りない部分はあるものの、ある程度の内容がまとめられている 	<ul style="list-style-type: none"> - 接続詞や代名詞といったテキストを構成する要素がほとんど用いられていない - 内容に乏しく、まとまりがない
質疑応答をする	<ul style="list-style-type: none"> - 語句の発音や文の抑揚が完璧であり、聞き取るのにまったく問題ない - つかえたり止まったりすることがなく、流暢である - 聴衆への気配りが行き届いており、聴衆の関心を引きつけることに成功している - 質問の意図を正しく理解している 	<ul style="list-style-type: none"> - 語句の発音や文の抑揚にあまり間違いがなく、聞き取るのにそれほど問題がない - 時々つかえたり止まったりはするが、概ね流暢である - 聴衆への気配りがあり、聴衆は関心をもってくれている - 質問の要点を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> - 語句の発音や文の抑揚に間違いが多く、聞き取りづらいほどではない - つかえたり止まったりすることが目立つが、ただどしどしというほどではない - 聴衆へ気配りする余裕はあまり見られないが、聴衆の気を損ねるほどではない - 質問の内容をおおまかに理解している 	<ul style="list-style-type: none"> - 語句の発音や文の抑揚に間違いが多く、聞き取りづらい - つかえたり止まったりすることが多く、ただどしどし - 聴取への気配りが見られず、聴衆の聞く気を損ねる表である - 質問の内容を理解していない
質疑応答をする	<ul style="list-style-type: none"> - どの質問にも適切に答えることができている 	<ul style="list-style-type: none"> - 質問に対して少なくとも要点は答えることができている 	<ul style="list-style-type: none"> - 質問に対して答えられない部分はあつもの、何かしらの回答はしている 	<ul style="list-style-type: none"> - 質問に対して答えられない

新学習指導要領に適した ドイツ語授業案

1

第8回日本独文学会関東支部研究発表会
2017年11月11日 慶應義塾大学日吉キャンパス
吉村創（慶應義塾高等学校）

0. 本発表について

2

- 本発表は、平成29年度文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」における、新学習指導要領の方針に沿ったドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語の授業計画を提案する研究の一環として行われるものである
- 本発表における授業計画については、平成30年度の同事業における本研究において実施され、その成果が検討される予定である（平成30年度において本研究が同事業に採択されるかどうかは現時点では未定）
- 本研究では2018年1月に研究成果報告会が予定されており、本発表はその報告会に向けての中間発表という位置付けである

0. 本発表について

3

- 発表の流れ
 1. 新学習指導要領について
 2. 授業計画について
 3. この授業計画の長所
 4. 実施例

1. 新学習指導要領について

4

- 学習指導要領とは

「教育基本法に定められた教育の目的等の実現を図るため、学校教育法に基づき国が定める教育課程の基準であり、教育の目標や指導すべき内容等を示すものである。」

「各学校においては、学習指導要領等に基づき、[...]教育課程が編成され、年間指導計画や授業ごとの学習指導案等が作成され、実施されている。」

中央教育審議会(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』194ページ

1. 新学習指導要領について

5

- 五つの領域

1. 聞くこと
2. 読むこと
3. 話すこと(やり取り)
4. 話すこと(発表)
5. 書くこと

中央教育審議会(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』194ページ

1. 新学習指導要領について

6

- 三つの資質・能力の育成

1. 知識・技能
2. 思考力・判断力・表現力等
3. 学びに向かう力・人間性等

中央教育審議会(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』193ページ

1. 新学習指導要領について

7

- 「三つの資質・能力」を外国語学習においてどのように育成するのか
 - 学習者が自ら考えて「知識・技能」を獲得するよう、導入の仕方を工夫する
 - 学習者がもつ知識・技能を活用して「思考・判断・表現」できるような課題を設定する
 - 「学びに向かう力・人間性」を測ることのできる活動を設定する

1. 新学習指導要領について

8

• アクティブ・ラーニング

「学びの過程において子供たちが、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりしていることが重要である。」

「単に知識を記憶する学びにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも重要になる。」

中央教育審議会(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』47ページ

1. 新学習指導要領について

9

• 外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」

「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」

中央教育審議会(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』196ページ

2. 授業計画について

10

- 授業計画

- ドイツ語母語話者をはじめとする聴衆に向けて口頭で学校紹介をし、質疑応答を行う

<配布資料>

1. 授業計画
2. ルーブリックによる評価

2. 授業計画について

11

- 授業の流れ

- 語彙や表現を集めるためにモデルとなるドイツ語テキストを「読む」
- 学校紹介文を「書く」
- 聴衆に向けて発表する(話す(発表))
- 質疑応答を行う(話す(やり取り)、聞く)
- ルーブリックによる評価を行う

2. 授業計画について

12

- 語彙や表現を集めるためにモデルとなるドイツ語テキストを「読む」
- Assoziogrammを作成し、発表テーマから連想される語彙や表現を思いつくままに挙げていく
 - 学習者がすでに持っている知識を活性化する
 - 学習者が使いたいと思う表現を自ら選び、自分なりの「表現集」を作る

2. 授業計画について

13

- 学校紹介文を「書く」

- 先に日本語で文章を作りそれをドイツ語に訳すのではなく、これまでの作業で集めた語彙や表現で書けることは何かを判断しながら文章を作成する。

- 「自分の」ドイツ語で作文することが大事である

2. 授業計画について

14

- 聴衆に向けて発表する(話す(発表))

- 実際に学校を歩いて案内しながら、それぞれの場所(校舎、食堂、グラウンドなど)にて発表する

- その場にあるものを指でさす、実物を示す、など言語によらない表現手段も用いての発表を行うことにより、実際に物事を伝える場合は様々な行為をするものなのだという事に気づいてもらう

2. 授業計画について

15

- 質疑応答を行う(話す(やり取り)、聞く)

- 授業において、質問されそうな内容を事前に予測しておき、その質問表現や答え方をドイツ語で確認しておく

- 学習者のレベルによっては、あまり難しい語句を使わないよう聴衆と相談しておいてもよい

2. 授業計画について

16

- ルーブリックによる評価を行う

- 「学習の過程と、結果を評価する際に使われる採点基準を明確に記述した評価のガイドライン」

- 「学習者に有意義なフィードバックを提供するだけでなく、事前に学習者に渡すことにより、学習者はたえず目標を確認し、自己評価をして自分の学習を内省し学習方法を修正することで学習効果が高まる」

国際文化フォーラム(2013)『外国語学習のめやす』68-70ページ

3. この授業計画の長所

17

- 五つの領域すべてを扱っている

- 学習者が生活を送る場を発表のテーマとすることにより、学習者が伝えたいと思う内容を容易に見いだすことができるため、生徒の表現欲求に適している

- ドイツ語話者に向けてドイツ語を使用する機会を設けている。その際、事前に打ち合わせを行うことでドイツ語のレベルを調整することができる

3. この授業計画の長所

18

- 自分が紹介したいと思うテーマについて、自分で集めた語彙や表現を使って作文し、その作文に基づいて表現ややり取りをすることにより、ドイツ語を「自分のことば」として扱うことができる

- 聴衆に配慮した発表や、発表者とは異なる文化背景をもつ聴衆の考え方を考慮した質疑応答をとおして、上記三つの資質・能力、とくに「学びに向かう力・人間性等」の資質を測り、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする積極的態度や意欲を評価することができる

- 類似の活動についての実施例
 1. 初級クラスにおける「学校紹介」の実施例
 2. 中級クラスにおける「学校紹介」の実施例

ルーブリックによる評価

ポイント	目標以上達成	目標達成	もう少し頑張ろう	努力が必要
紹介文を書く	- 語句や表現が豊かに適切に用いられており、文意の読み取りにまったく問題ない	- 語句や表現が適切に用いられており、文意が読み取れる	- 同じ語句や表現が繰り返しあらわれるが、文意は読み取れる	- 語句や表現が適切に用いられていないため、文意が読み取れないところがある
	- 文法上の間違いがない	- 文法上の間違いが少ない	- 文法上の間違いが少なからずある	- 文法上の間違いが多い
	- 接続詞や代名詞を用いてテキストがきちんと構成されている	- 接続詞や代名詞が用いられ、テキストを構成しようという努力が見られる	- 接続詞や代名詞といったテキストを構成する要素が少し用いられている	- 接続詞や代名詞といったテキストを構成する要素がほとんど用いられていない
	- 分かりやすく興味をもてる内容が過不足なくまとめられている	- ひとつとりの内容が分かりやすくまとめられている	- 説明し足りない部分はあるものの、ある程度の内容がまとめられている	- 内容に乏しく、まとまりがない
口頭で学校紹介をする	- 語句の発音や文の抑揚が完璧であり、聞き取るのにまったく問題ない	- 語句の発音や文の抑揚にあまり間違いがなく、聞き取るのにそれほど問題がない	- 語句の発音や文の抑揚に間違いがあるが、聞き取れないほどではない	- 語句の発音や文の抑揚に間違いが多く、聞き取りづらい
	- つかえたり止まったりすることがなく、流暢である	- 時々つかえたり止まったりはするが、概ね流暢である	- つかえたり止まったりすることが目立つが、たどたどしいというほどではない	- つかえたり止まったりすることが多く、たどたどしい
	- 聴衆への気配りが行き届いており、聴衆の関心を引きつけることに成功している	- 聴衆への気配りがあり、聴衆は関心をもってくれている	- 聴衆へ気配りする余裕はあまり見られないが、聴衆の気を損ねるほどではない	- 聴衆への気配りが見られず、聴衆の聞く気を損ねる発表である
質疑応答をする	- 質問の意図を正しく理解している	- 質問の要点を理解している	- 質問の内容をおおまかに理解している	- 質問の内容を理解していない
	- どの質問にも適切に答えることができている	- 質問に対して少なくとも要点は答えることができている	- 質問に対して答えられない部分はあるものの、何かしらの回答はしている	- 質問に対して答えられていない

研究開発課題

* 新学習指導要領を踏まえた下記2項目に留意するという5言語共通の方針のもとに単元指導案を作成し、実践する。
 A: 育成すべき資質・能力の3つの柱(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう態度」)
 B: 指導目標の5領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」)

取組内容

取組①
 単元目標としてパフォーマンス課題(プレゼン発表)を設定し、これを実現させるための授業の逆向き設計を行う。

取組②
 単元を通じて養われるべき力を、資質・能力の3つの柱別の柱別の目標として明確化する。

取組③
 単元を通じて、5領域の力が総合的に養われるように授業をデザインする。

成果①
 「道案内」の単元で「道に迷っているフランス人(俳優、サッカー選手などから1名選ぶ)」に道案内をする。パフォーマンス課題を設定した結果、生徒がより身近で具体的な場面を想像し、意欲的に取り組んだ。
 <教師の観察>
 * 従前のモデルダイアログを覚えて発表する形式よりも、自分たちにより現実的な内容として捉え、生徒同士が協力して原稿の作成・修正等に意欲的に取り組む様子が見られた。

成果②
 目標を明確化することにより、お互いの苦手な部分を補いながら、一人ひとりが「自分のことば」としてのフランス語で発表を行うことで、気後れせず発表する態度が見られ、今後の学習意欲の向上につながることができた。
 <生徒の感想>
 * 自然に東京オリンピックを意識しました。とても楽しかったです。

成果③
 モデルダイアログを「読む」力、原稿作成により「書く」力、プレゼン発表により「話す(発表)」力、および他者の発表を「聞く」力を養うことができた。もう一つの課題「自分の住んでいる町紹介」では定期テストの仏作文として出題し、より正確な「書く」力を養うことができた。
 <生徒の感想>
 * 評価基準をあらかじめ配布してもらえたので意識して準備ができた。町紹介では、自分の住んでいる場所を客観的に見ることができた。

研究の成果と課題

「道に迷っているフランス人(俳優、サッカー選手、モデル、キャスターなど複数名から1名選ぶ)」に道案内をする」というグループでのプレゼン発表を一つの評価とした。(定期テスト100点のうち10点分「道案内」に必要な文法事項や必要な語句・表現などを学ぶ一方で、パフォーマンス課題(プレゼン発表)を設定して授業を逆向き設計することにより、生徒がより身近で現実的な内容として捉え、自分たちで選ぶ楽しさを感じながら、意欲的に取り組むことができた。3能力別に目標を明確化することにより、お互いの苦手な部分を補いながら、一人ひとりが「自分のことば」としてフランス語で発表を行うことで、気後れせず発表する態度が見られ、今後の学習意欲の向上につながることができた。また、モデルダイアログを「読む」力、原稿作成により「書く」力、プレゼン発表により「話す(発表)」力、および他者の発表を「聞く」力を養うことができた。もう一つの課題「自分の住んでいる町紹介」では、定期テストの仏作文として出題し、より正確な「書く」力を養うことができた。評価基準を事前配布し、より意欲的に準備させることができた一方、発表を見て自己評価・他者評価をしたり他のグループが使用した表現・語彙を共有したりするまでは達成できなかった。本校では2020年度の大学入試改革を受けて、3年前から本校作成のオリジナル教科書からCEFRに準拠したテキストに変更し、語句・表現・文法事項を補足した解説プリントや宿題プリントを補足しながら独自のカリキュラムを進めているが、Can-doリストの作成および活用方法については、次年度以降の課題としたい。今回は、学習2年目の生徒対象であったが、今後は学習1年目または3年目、または高校のフランス語(第1外国語・第2外国語とも)でもパフォーマンス課題を目標とする単元指導案を作成し実践を試みたい。さらに、複数の単元で実施し、その成果を年間授業計画にどのように反映できるのか、今後検討していきたい。

■単元の指導計画

次	ねらい(授業をとおして、生徒がどう変容しているか)	学習内容	学習活動	言語の5つの領域の目標				評価規準	評価方法
				聞く(読む)	話す(やむ)	読む(り)	話す(り)		
1時間目 2時間目	簡単な町紹介についての言語技能・知識を身につけることができる。	簡単な町紹介に関するモデルモノローグを理解し、表現する。パリの歴史的建造物を学ぶ。	①モデルモノローグを聞き、内容を理解する(個人、ペア) ②発音練習をする(個人) ③パリの建造物について学習する(個人)	○	○	○	○	内容が理解できているか はっきり発話できているか 内容が理解できているか	行動の観察(生徒の反応) 行動の観察(練習の様子) 行動の観察(生徒の反応)
3時間目	道案内についての言語技能・知識を身につけることができる。	道案内に関するモデルダイアローグを理解し、表現する。道案内に必要な語彙・表現・文法を学ぶ。	①モデルダイアローグを聞き、内容を理解する(個人、グループ) ②発音練習をする(個人、グループ) ③モデルダイアローグの練習をする(ペア)	○	○	○	○	内容が理解できているか はっきり発話できているか はっきり発話できているか	記述の確認(宿題プリント) 行動の観察(生徒の反応) 行動の観察(練習の様子) 行動の観察(生徒の反応)
4時間目 5時間目	道案内に必要な言語技能・知識をさらに学習する。	簡単な地図を見て、道順を示すことができる。道案内に必要な語彙・表現・文法をより理解する。	④語彙・表現・文法事項(人称代名詞強弱形、右/左に曲がる、まっすぐ進むなど)を学習する(個人、グループ) ①出てきた動詞の活用を確認し、必要な語彙・表現を増やす ②必要な語彙・表現を調べ、道案内のテンプレートにあてはめて語彙・表現の確認をする(個人) ③語彙・表現・文法事項(人称代名詞強弱形、右/左に曲がる、まっすぐ進むなど)を学習する(個人、グループ)	○	○	○	○	語彙・表現・文法事項を理解できているか 内容が理解できているか 適切な表現・語彙を使っているか 語彙・表現・文法事項を理解できているか	記述の確認(宿題プリント) 行動の観察(生徒の反応) 記述の確認(宿題プリント) 記述の確認(宿題プリント) 記述の確認
6時間目	道案内のダイアローグ作成のために適切な言語素材を準備をすることができる。	ワークシートをもとに、グループで道案内に関するオリジナルダイアローグの原稿をつくる。	①必要な語彙・表現を調べ、モデルダイアローグのテンプレートにあてはめながら原稿を書く(グループ) ②必要な語彙・表現の確認	○	○	○	○	適切な表現・語彙を使っているか ペアで協力して作業を進めようとしているか	記述の分析(ワークシート) 行動の観察(準備の様子)
7時間目	道案内のダイアローグ作成のために適切な言語素材を準備をすることができる。	道案内に関するオリジナルダイアローグの原稿を推敲し、完成度を高める。道案内に必要な語彙を増やす。	①必要な文法事項・語彙・表現を増やす ②必要な語彙・表現の確認 ③オリジナルダイアローグの練習をする(ペア)	○	○	○	○	語彙・表現を理解できているか 内容が理解できているか スムーズに発話しようとしているか ペアで協力して作業を進めようとしているか	記述の分析(ワークシート) 行動の観察(語彙小テスト和訳) 行動の観察(練習の様子)

8時間目	道案内について、的確な表現でわかりやすく紹介することができる。学習内容を確認するとともに、次につなげることができる。	オリジナルダイアログの表現の完成度を高め、発表する。発表の相互評価をする。	オリジナルダイアログの発表をする(ペア)					評価基準に沿って、わかりやすい発表になっているかどうか	行動の観察(発表の様子)
			①オリジナルダイアログの発表をする(ペア) ②発表を見て、自己評価・他者評価をする(ペア) ③他のペアが使った表現・語彙を共有する(個人)					評価基準に沿って、わかりやすい発表になっているかどうか	発表(行動)の分析 行動の確認
後期第一中間試験									
9時間目 10時間目	1時間目比べ、より詳しい町紹介についての言語技能・知識を身につけることができる。	より詳しい町紹介に関するモデルモノローグを理解し、表現する。	①モデルモノローグを聞き、内容を理解する(個人、ペア) ②発音練習をする(個人) ③パリ13区の建造物について学習する(個人) ④語彙(町の施設・表現・文法事項(不定冠詞と不定冠詞の使い分け)を学習する(個人、グループ)) ⑤留学生と交流し、自分の住んでいる国を客観的に見る機会を持つ					内容が理解できているか はっきり発話できているか 内容が理解できているか 語彙・表現を理解できているか はっきり発話できているか 相手に伝えようとしているか	行動の観察(生徒の反応) 行動の観察(練習の様子) 行動の観察(生徒の反応) 記述の確認(宿題プリント) 行動の観察(生徒の反応) 記述の確認(宿題プリント) 記述の分析(宿題プリント)
11時間目 12時間目	より詳しい町紹介ができるよう言語技能・知識を身につけることができる。	より詳しい町紹介に必要な文法事項を学ぶ。自分のオリジナルモノローグの原稿をつくり、表現する。	①必要な文法事項(前置詞/いつ、どこ)、語彙・表現を増やす ②必要な語彙・表現を調べ、モデルモノローグを参考に原稿を書く(個人) ③不定冠詞と冠詞の使い分けを学びながらフランスの歴史的建造物について学習する					語彙・表現を理解できているか 内容が理解できているか 適切な表現・語彙を使っているか 語彙・表現を理解できているか	記述の確認(宿題プリント) 記述の分析(宿題プリント) 行動の観察(練習の様子)
13時間目	より詳しい町紹介について、言語素材を準備をすることが出来る。	オリジナルモノローグの原稿を推敲し、完成度を高める。	①必要な文法事項(前置詞/いつ、どこ)、語彙・表現の確認 ①オリジナルモノローグの練習をする(個人) ①オリジナルモノローグの発表をする(個人)					内容が理解できているか スムーズに発話しようとしているか 見る人に伝えようとしているか	行動の観察(語彙小テスト) 行動の観察(練習の様子) 行動の観察(発表の様子)
14時間目	より詳しい町紹介について、紹介することができる。単元学習内容を確認するとともに、次につなげることができる。	オリジナルモノローグの表現の完成度を高め、発表する。発表の相互評価をする。	②発表を見て、自己評価・他者評価をする(個人) ③他のペアが使った表現・語彙を共有する(個人)					スムーズに発話できたか 見る人に伝えられたか 語彙・表現を理解できているか	発表(行動)の分析 行動の確認(生徒の反応)
15時間目	単元学習内容を確認するとともに、言語学習を通してより深い文化や社会への気づき、理解を促す。そして次の単元へ繋げる。	道案内、町紹介に必要な語彙・表現、文法事項の確認を行うとともにその言葉が話されている国の文化や抱える問題などに目を向けさせる。	①パリを自転車で行くかのコースを見ながら、歴史的建造物や地区を知ること、フランスやヨーロッパ、アフリカへの歴史に興味を引き出すとともに、現代フランスが抱える移民問題への意識づけをさせる ②パリのレンタサイクルシステムが日本にも導入されつつある現状を知ること、渋滞緩和と大気汚染対策などを考える契機とする					内容が理解できているか 内容が理解できているか	行動の確認(生徒の反応) 行動の確認(生徒の反応)
後期第二中間試験									

評価基準 (demander et indiquer un chemin)

	audienceに与える影響	多様な単語とフレーズの選択	正しい文法を用いて話す。	正しい発音やイントネーションで話す。	姿勢、アイコンタクト、表情、ジェスチャーの使用
4	道案内を明確に伝えることができるようなプレゼンのスタイルである。	状況に応じて、効果的に、多様な言葉の選び方、フレーズの選び方をしている。	非常に正確な文法を使い、間違っていない。メッセージが明確に伝わる。	非常に正確な発音やイントネーションで話し、メッセージが明確に伝わる。	状況に合わせて、効果的に使っている。
3	道案内をほぼ伝えることができるようなプレゼンのスタイルである。	状況に応じて、多様な言葉の選び方、フレーズの選び方をしている。その選択の範囲は比較的広い。	かなりの程度正確な文法を使い、間違っていない。メッセージは伝わる。	かなりの程度正確な発音やイントネーションで話し、メッセージは伝わる。	状況に合わせて、十分に使っている。
2	道案内をある程度は伝えることができるようなプレゼンのスタイルである。	状況に応じて、多様な言葉やフレーズの選択の範囲はまずまずである。	ある程度正確な文法を使うが、間違っている箇所は、メッセージが伝わりづらい。	ある程度正確な発音やイントネーションで話す。メッセージが伝わりづらい。	状況に合わせて、ある程度使っている。
1	道案内がほんの少ししか伝わらないプレゼンのスタイルである。	状況に応じて、多様な言葉やフレーズの選択の範囲は限定的である。	少しだけ正確な文法を使っており、間違っている箇所は、メッセージが伝わりづらい。	少しだけ正確な発音やイントネーションで話すことができて、メッセージが伝わりづらい。	状況に合わせて、少し使っている。もしくは、状況に合った使い方をしていない。

Classe

Nom

note

Bonjour, je m'appelle Imane !

J'habite à Paris.

J'adore ma ville parce qu'il y a des monuments célèbres, des

jardins et des grandes places, et parce qu'il y a la tour Eiffel !

C'est moi, là, sur la photo.

Je suis à vélo.

C'est mon moyen de transport !

こんにちは、私の名前はイマーンです！

パリに住んでいます。

私は自分の住んでいる町が大好きです。なぜなら、有名な建物や公園、広場、そしてエッフェル塔があるからです。

写真に載っているのが私です。

自転車に乗っています。

これが私の交通手段です！

Dans mon quartier, il y a tout : une piscine, une bibliothèque, des jardins, une jolie place, etc.

Moi, j'habite près de mon collège, pas loin de la station de métro et de la bibliothèque François-Mitterrand.

J'adore faire du roller dans les jardins de mon quartier !

私の町には、すべてあります。プール、図書館、講演、素敵な広場など。

私は自分の中学校の近く、地下鉄の駅とフランソワミッテラン図書館から遠くないところに住んでいます。

住んでいる地区の公園でローラースケートするのが好きです。

- Xavier Allô, Imane ? C'est Xavier...je suis perdu, c'est où, chez toi ?
- Imane どもし、イマーヌ？グザビエだよ。迷っちゃったんだけど、君の家どこ？
- Xavier Tu es où ? À la station de métro ?
- Imane どのにいるの？地下鉄の駅？
- Xavier Non, je suis sur le pont de Tolbiac.
- Imane うん、トルビアックの橋の上。
- Xavier Tu traverses le pont, et tu continues tout droit.
- Imane 橋を渡って、まっすぐ進んで。
- Xavier Tout droit après le pont, d'accord.
- Imane 橋を渡ったらまっすぐね、わかった。
- Xavier Après, tu tournes à gauche, rue des Frigos.
- Imane それから、フリゴ通りを左に曲がって。
- Xavier À gauche, rue des Frigos.
- Imane フリゴ通りを左だね。
- Xavier Et après tu tournes à droite, rue Goscinny !
- Xavier La rue Goscinny ? Mais, c'est chez Lucille !
- Imane それから、ゴシニ通りを右に曲がって。
- Xavier Oui, on habite la même rue. Chez elle, c'est au numéro 22. Chez moi, c'est au numéro 8. À pied, c'est à 10 minutes du pont de Tolbiac.
- Xavier Goshini? でも、それってルシールの家じゃない？
- Imane そう。同じ通りに住んでるの。彼女の家は22番地。私の家は8番地。徒歩でトルビアック橋から10分くらいよ。
- Xavier Je ne suis pas à pied, je suis à vélo !
- Imane 歩きじゃないよ。自転車だよ！
- Xavier À vélo ? Tu fais du vélo et tu téléphones ?
- Imane 自転車？自転車乗りながら電話してるの？
- Xavier Non, je ne roule pas, je suis sur le trottoir.
- Imane ちがうよ。乗ってないよ。歩道の上にいるよ。
- Xavier Je préfère !
- Imane ならいいけど。



あなたは友達と遊びに出かけました。すると、道に迷っている人がいます。どうやら彼はフランス語を話すようです。フランス語で話しかけて、どこに行きたいのかを聞いて、道を教えてあげましょう。

道に迷っているフランス人男性をだれか一人決めて、p.62の Dialogue や表現をふやそうプリント(1)を参考に、道案内のオリジナル dialogue の台本を作成しましょう。

(この原稿を覚えて発表してもらいます。道に迷っているフランス人男性役1名、道案内をしてあげる日本人女性2~3名)

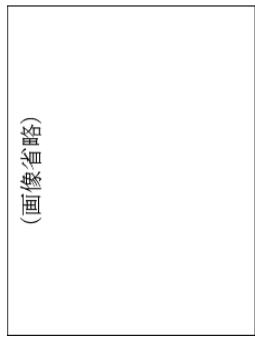
道に迷っているフランス人男性①



(画像省略)

Camille Lacourt (カミーユ・ラクール) 身長・体重：200cm 92kg 1985年4月22日
2010年にヨーロッパ水泳選手権の50m、100m背泳ぎで優勝。11年世界水泳選手権100m背泳ぎで金メダル、50m背泳ぎで銀メダルを獲得。ロンドンオリンピックにも出場。

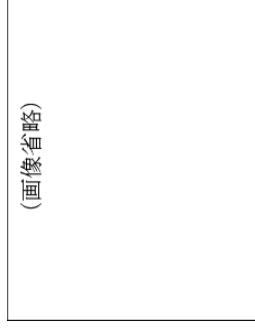
道に迷っているフランス人男性②



(画像省略)

Gaspard Ulliel (ギヤスパール・ウリエル) 俳優 パリ第8大学(サン・ドニ)で映画を専攻。2001年に『ジェヴォーダンの獣』で映画デビュー。2003年公開の『かげろう』でエマニュエル・ベアールの相手役に抜擢され、フランス国内で注目を集める。2004年公開の『ロング・エンゲージメント』ではセザール賞有望若手男優賞を受賞。2007年公開の『ハンニバル・ライジング』では、若き日のハンニバル・レクターを演じた。2010年、シャネルの香水「BLEU DE CHANEL」のイメージモデルに採用される。左側顔のエクボのようなへこみは幼い頃ドローベルマンに噛まれた傷跡。

道に迷っているフランス人男性③



(画像省略)

Enzo Weyne (エンゾ・ウエイン) イリュージョニスト、マジシャン
一般人が自分の特技を披露するTV番組 Incroyable talent がきっかけでマジシャンデビュー。

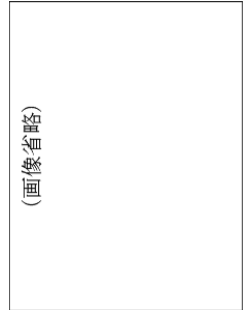
道に迷っているフランス人男性④



(画像省略)

Baptiste Giabiconi(バプティスト ジヤビコーニ) モデル
カールラガーフェルドに見いだされ一気にトップモデルの道へ。1989年マルセイユ生まれ、両親はコルシカ島出身。シャネル、フェンディ、アルマーニなどのモデルとして大活躍。歌手としての仕事もしている。

道に迷っているフランス人男性⑤



(画像省略)

Harry Roselmack (ハリリー ロゼルマック) ニュースキャスター
TF1 ニュースキャスター、最近では日曜日の週刊ルポーターージュ番組を担当している。

道に迷っているフランス人男性⑥

(画像省略)

Olivier Giroud(オリヴィエ ジルー) フランス代表のサッカー選手
プレミアリーグアナーセルF0所属ポジションはフォワード。フランスのベッカム！？といっても
過言ではないほど、ワールドカップにも出場していた。

道に迷っているフランス人男性⑦

(画像省略)

Alain Delon (アラン ドロン) 俳優
1960年代から1980年代初期にかけて美男の代名詞的存在だった。日本での人気は絶大で、美男子
の代名詞ともなった。また、女性のみならず、前述の『太陽がいつぱい』『さらば友よ』そして
『冒険者たち』『サムライ』『地下室のメモロディー』などで幅広い層のファンを獲得した。彼の
ファッションや映画のセリフ、立ち居振舞い、サングラス、煙草の吸い方などに憧れたり、真似
をする男性たちが続出した。本国など欧米でももちろん人気俳優ではあるが、どちらかといえば
芸術映画、社会派映画に好んで出演するタイプの俳優であり、日本での大衆的、アイドル的な人
気ぶりは世界でも異例であった。

Tout le monde(全員) On a choisi _____

Parce que _____

_____ Bonjour. Qu'est-ce que vous avez ?* *どうしたんですか？

_____ Je suis perdu... ?

_____ c'est où, _____ ?

_____ - _____, c'est près d'ici.

_____ - D'abord,

_____ puis

_____ et ensuite

_____ enfin

_____ À pied, c'est à

-Merci, Mesdemoiselles ! Vous êtes super gentilles. Voilà mon adresse de mail.
J'espère qu'on se verra un jour en France !!

番号 _____ 名前 _____

外国語教育強化地域拠点事業

フランス語の試み

神奈川県川崎市 私立カリタス女子中学高等学校
フランス語科
櫻木千尋



カリタス女子中学高等学校

- ・川崎市多摩区
- ・カナダのフランス語圏ケベックのケベックカリタス修道女会によって1961年に創立
- ・幼少中高
- ・中高一貫
- ・創立当初から英語とフランス語の2つの外国語教育



外国語教育の状況 幼少

・幼稚園 外国語や異文化への興味付け

・小学校

1・2年生 週一回20分

カリタス独自の Verbo-Tonale Gladich メソッド
フランス語のリズムとイントネーション

3年生 週一回40分

Hachette 社の「Les Loustics Vol.1&2」

4年間で CEFR に準拠した Delf Prim A1で要求される
聞く、読む、書く、話す力を身に付ける



外国語教育の状況 中学・高校

中学 全員フランス語必修

週45分×2 (1時間はネイティブ教員)

内部進学者と外部進学者が半分ずつ

フランス語科のキャラクター
メルシーちゃん

- ・中1 既習クラス (内部進学者) と初習クラス (外部進学者)
- ・中2、中3 既習・初習合同 ハーフクラス (20名)

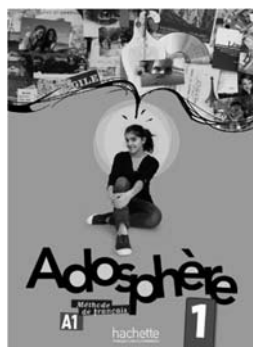
高校 第一外国語 (大学受験使用言語) 選択
フランス語による大学受験に対応

- ・英語かフランス語のいずれかを選択 (文系に限る)
- ・高校2年次に第二外国語として英語、フランス語いずれかを選択できる

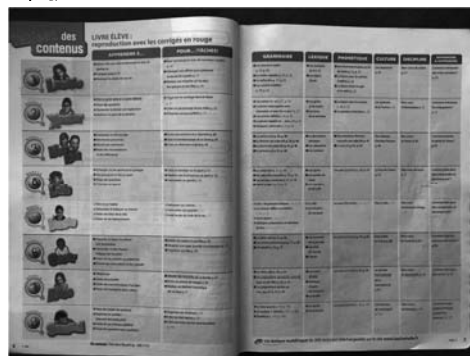
町紹介をしよう 中学2年 (ハーフクラス)

- ・実施時期 9月~12月
- ・言語レベル A1
- ・単元の授業時数 45分×15回
- ・使用教科書 Adosphère 1(Hachette)
- ・使用単元 Module 5 全8 module
- ・補助教材 文法解説プリント
宿題プリント

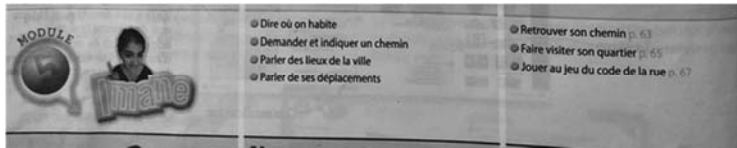
2020年の新学習指導要領実施を見据えて、
2015年からCEFR準拠のテキストに変更



CEFR準拠のテキスト Can do リスト

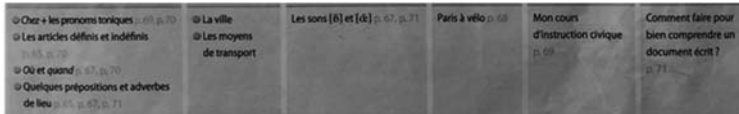


何を学ぶか どのように学ぶか



- 住んでいる場所をいうことができる
- 道順を訪ねたり教えたりできる
- 町の場所について話せる
- 移動手段について話せる
- 道を見つけられる
- すんでいる町の紹介
- 交通ルールをすごくでまなぶ

文法 語彙 発音 文化 生活規範 学び方を学ぶ



- Chez + 強勢形
- 定冠詞と不定冠詞
- どこ? いつ?
- 場所を示す前置詞と場所の副詞
- 町
- 交通手段
- パリをサイクリング
- 公民教育・テキストをより理解するにはどうすればいいか

解説プリント

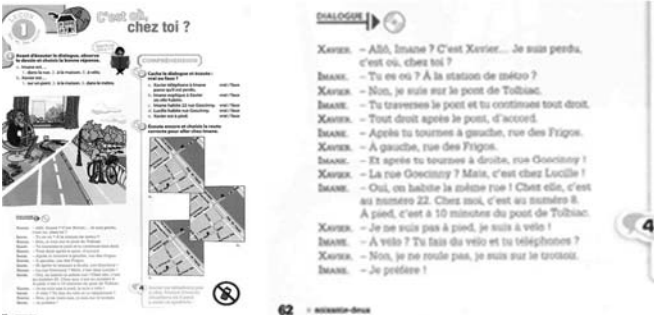
日本語での補足説明で理解度をあげる



- 目標:
1. 自分の住んでいるところについて話れるようになる。
 2. 場所や位置を表す単語を覚える。
 3. 道順を説明できるようになる。
 4. パリの建造物がわかる。

項目	内容	ページ
1. 道案内	道案内の表現	101-102
2. 道案内の表現	道案内の表現	101-102
3. 道案内の表現	道案内の表現	101-102
4. 道案内の表現	道案内の表現	101-102

従来のパフォーマンス課題 = モデルダイアログをそのまま覚えて発表



パフォーマンス課題の変更 = 学習した内容を使って自分の言葉で語る

- 道に迷っているフランス語圏の人に道案内をする発表。
- 的確な表現で道案内をフランス語で書き、よりわかりやすく口頭で伝えることができる。
- 自分の住んでいる町の紹介にふさわしい内容を学習した知識や技能を使って伝えることができる。



パリを自転車で巡りながら、地区の多様性、現代フランスが抱える移民問題にも話題を展開。
日本における多文化共生を考える。

パリのレンタサイクルの映像を見せる
=日本におけるレンタサイクルとの比較

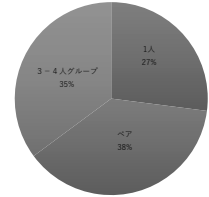
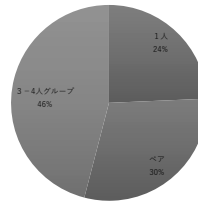


フランス語実戦の場：学習した表現を使って留学生5名におすすめの場所を教える。

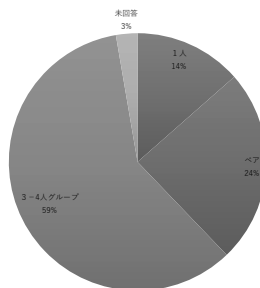


アンケート結果
授業形態について 1人/ペア/グループ

どのスタイルの授業が好きか どのスタイルの授業が最も効果的と思うか



どのスタイルの授業で楽しくフランス語が勉強できるか



ペアワークについて

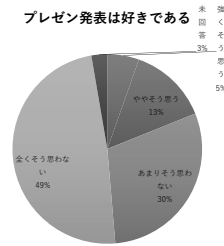
- ・一人では不安だったり気になるところ、出来ないところがわかる
- ・聞きあえて、納得して記憶に残って良い
- ・相手がどう考えるか、相手の意見がわかる
- ・自分より頭の良い相手だとわからないところを教えてもらえるし、逆だと自分が教えることで定着してとても良い
- ・もっとやってほしい
- ・余計な話をすることもあり、集中できないこともあるが、指摘しあえて良い
- ・二人ともフランス語が苦手だと辛い

3 - 4 人グループについて

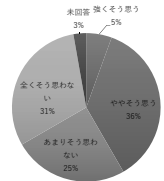
- ペアよりも色々な人の意見が聞けて、新たな発見をしたり、答えを導き出せたりして、その教科が少し楽しくなった。
- 外国語は大人数で学んだ方が身につくと思う
- ペアワークは答えを確認する程度、グループは発音や文の確認がよい
- グループの中で自分から意見を言ういい練習になったのでよかった
- 自分だけグループの会話についていけないことがあるが、より正確な意見を出せるというのは良い
- 余計な話をするのが少なくもなく、あまり集中できない

プレゼン発表について

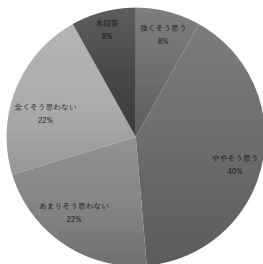
プレゼン発表は好きである



プレゼン発表を通してフランス語力に自信がつくようになった



プレゼン発表は効果的な仏会話練習法である



プレゼン発表について

- 会話テストはとても楽しい (少数)
- 緊張で頭が真っ白になることもあるが、度胸をつけるにはぴったりだと思う
- プレッシャーが本当に大きいので好きではないが、会話表現を覚える分には効果的
- 好きではないが、皆の前で話す練習になり、自分のためになり、良いと思う
- 自分のフランス語力が客観的にわかるので今後もやりたい
- ディクテ (聞き取り) が苦手だが、プレゼン練習をして行くうちに発音に慣れてきたのでこれからも続けてほしい
- 新しく会話の幅が広がった
- 自分をアピールする練習になったのでよかった
- 将来に役立つと思う
- なるべく小さなプレゼンをたくさんしてほしい

今後に向けて

- ① 目的に応じてペアワーク、グループワークをより多く取り入れる
- ② 生徒自身、プレゼン発表の効果は認めていることがわかった。
しかし、緊張やプレッシャーのため苦手だと言う意識が強いことがわかった。
→ プレゼン発表は小さなものを数回入れる。
そのことにより、フランス語力に自信を持たせることができる
- ③ 言葉を通して文化を学ぶこと、文化や社会の気づきも、非常に重要。
→ グループワークを通して行って行きたい
英語だけでなくフランス語も学ぶことで西歐的な思考の観点をも身につけていく。多角的な視野を持てる人材育成をしたい。
多様性が今後の日本を豊かにすると考える。
- ④ 他の単元や学年で実施
- ⑤ Can do リストの作成